

第1回 検討委員会資料

博物館、公園の現状・課題

令和7年7月30日

福井県立歴史博物館、幾久公園の
基本的方向性とりまとめ検討会

目次

1. 歴史博物館の現状

1-1. 1984年開館時のコンセプト.....	1
1-1. 2003年リニューアル時のコンセプト.....	2
1-2. 博物館 1階の概要.....	3
1-3. 博物館 2階の概要.....	7
1-4. 地下1階収蔵庫.....	10
1-5. 面積表.....	11
1-6. 入館者数の推移.....	12
1-7. 収集資料について.....	15

2. 幾久公園の現状

2-1. 経緯・基本方針.....	21
2-2. ゾーニング設定.....	22
シンボルゾーン.....	23
多目的運動ゾーン.....	24
テニスゾーン.....	25
休養ゾーン、幼児ゾーン・児童ゾーン.....	26
駐車ゾーン、植栽ゾーン.....	29
2-3. 面積表.....	30

目次

3. 歴史博物館の課題

- 3-1. 動線・視認性の課題.....31
- 3-1. 入口外観の親近感、館と園の相互活用の課題.....32
- 3-2. オープン収蔵庫の課題33
- 3-3. 情報ライブラリーの課題34
- 3-4. 講堂他の課題35
- 3-5. 歴史ゾーン、トピックゾーンの課題36
- 3-6. 歴史博物館 WEBレビュー評価ポイントまとめ33
- 3-7. 収蔵庫他の課題.....34

4. 幾久公園の課題

- 4-1. 幾久公園の課題の整理44
- 4-2. 参考資料(周辺の公園配置)52

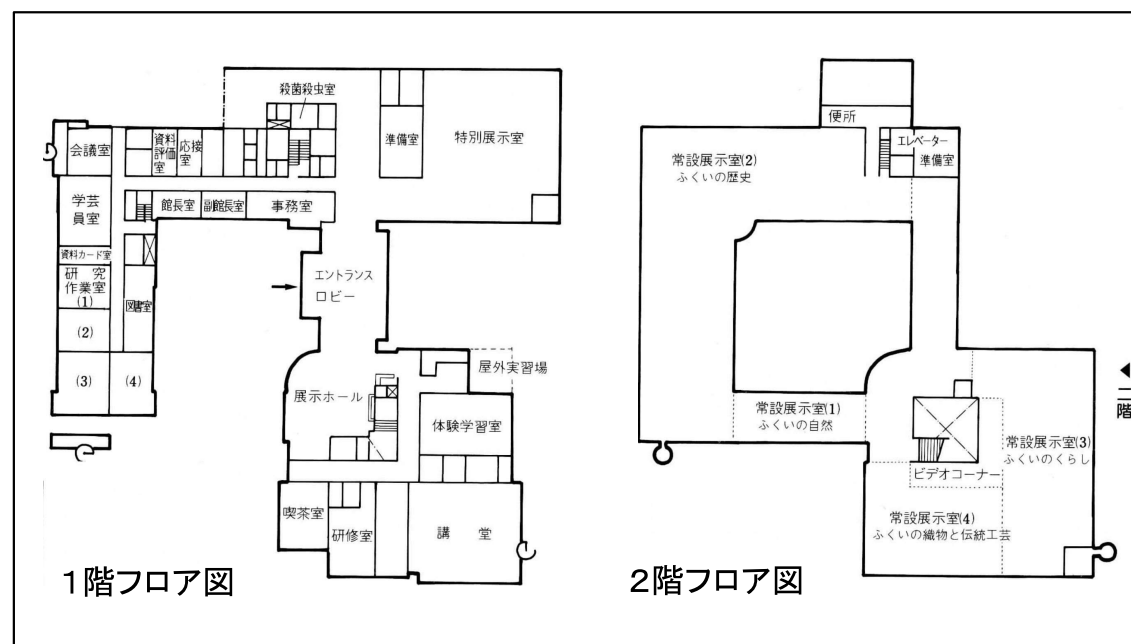
博物館、公園の現状

■博物館の経緯1

1984年(S59年)「県民の創造でひらく文化のふるさとづくり」を県政テーマにした諸施策(美術館・図書館他)のひとつとして、**県の文化の中核施設の役割を担う施設として、福井県立博物館が開館した。**

■1984年整備時の方針

この博物館は、**福井県の歴史、考古、民俗、産業の各分野からなる人文系を主体とし、これらを生み育ててきた背景である自然史系を加味した総合博物館として整備された。**美術館、資料館などの県内他施設との役割調整をはかりながら、相互に協力して事業を行った。



常設展示は、以下の4部門で構成

- ①ふくいの自然、②ふくいの歴史
③ふくいの暮らし、④ふくいの織物と伝統産業

▼ 部門別常設展示の内容

分野	主 題	分野	主 題
自然	・ふるさとの大地 ・大地のおいたち	歴史	・近世の越前・若狭 ・近代の福井 ・ふるさとの今
歴史	(時の流れ) ・越前・若狭のあけぼの ・古代の越前・若狭 ・仏教のくに ・中世の越前・若狭	民俗	・くらしと生業 ・信仰と祭
		繊維産業	・ふるさとの織物
		伝統工芸	・技を伝える

「ふくいミュージアム」博物館の計画のあらましより
『福井県立博物館 年報 第1号』「ごあいさつ」より

■博物館の経緯2

自然分野に関する展示、収蔵資料は、2000年（H12年）に福井県立恐竜博物館に移管。その後福井県の歴史、文化を担う博物館として、改修を実施。2003年（H15年）に福井県立歴史博物館が開館した。

■2003年改修時の方針

人文系歴史博物館であると同時に、県内博物館の中核施設としての性格、機能を併せ持つ博物館。“固定的で変化に乏しい”イメージを払拭し、「つねに変化をとげる新しいタイプの地域博物館」をめざす。県民の積極的な参加を期する「開かれた博物館」を理想像とする。

■性格及び機能

① 人文系歴史博物館としては、以下の機能を発揮する

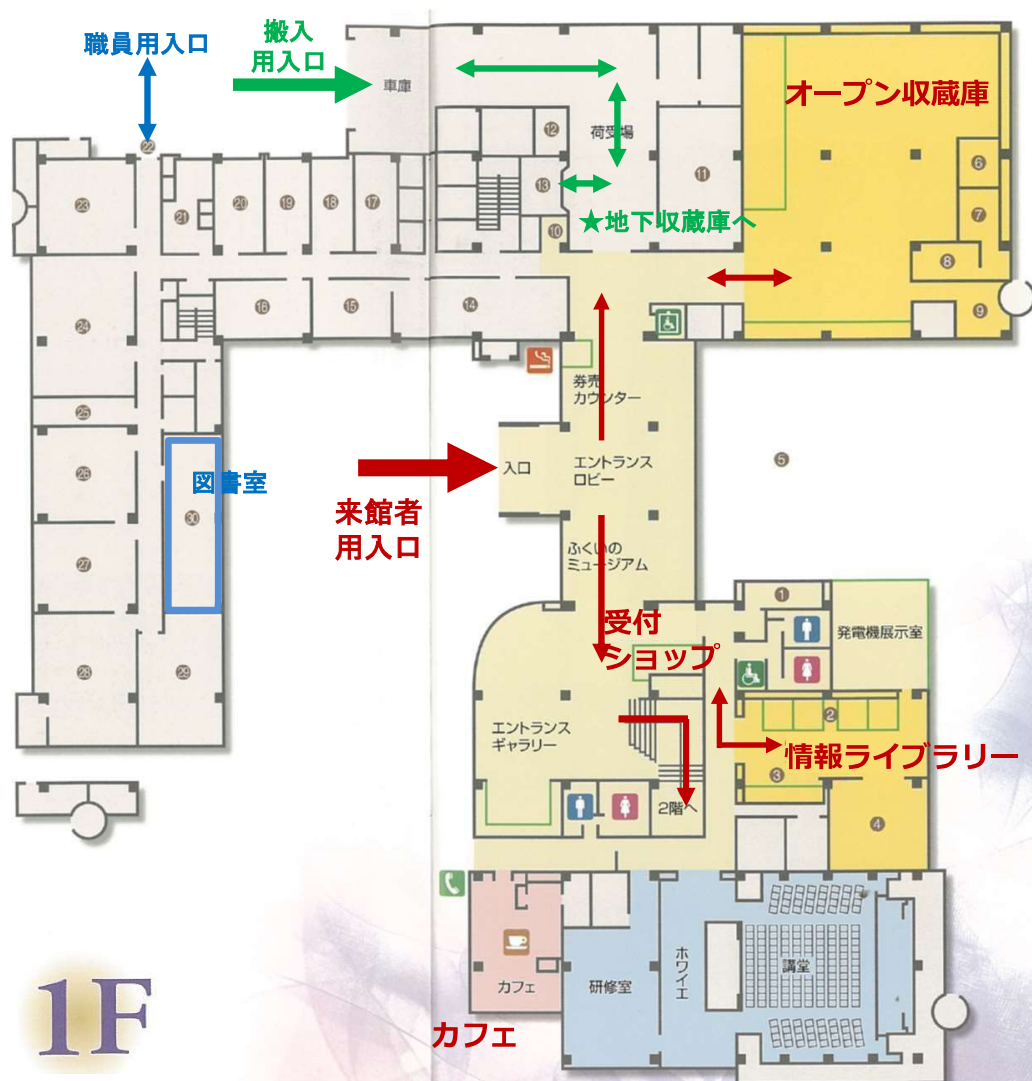
- ・福井県の歴史や文化に関わる総合的な調査研究と資料収集を推進
- ・福井県の歴史や文化に関わる情報を発信し、県民のアイデンティティ形成に寄与する
- ・生涯学習支援の一機関として、自ら学ぶことのできる環境を提供する

② 県内中核施設としては、以下の機能を発揮する

- ・県内の県立の博物館施設間の連携をはかる基地となる
- ・県内の市町村、民間の博物館・資料館等との連携の拠点
- ・博物館に関わる情報、連絡網の総合窓口的役割を果たす

■運営の基本理念

- ・利用者のニーズ、社会の動きに対応して「つねに変化をとげる新しいタイプの地域博物館」の創造をめざす
- ・展示・普及に加え資料収集においても参加体験を交えた活動を行う
- ・県民に広く運営事業の評価を求める姿勢をもって、柔軟な対応と質の高いサービスを心がける
- ・中長期的な計画のもとに調査研究・資料収集の活動を継続。その集大成を展示や普及事業に還元して、利用者の興味・関心を引き付ける
- ・“博物館の顔”となる展示事業に関しては、調査研究・資料収集の最新成果を逐次還元・反映するための新しいシステムを導入することが重要
- ・普及事業は、社会に対応した多様な取り組みを試みる



■県民参加の博物館

県民の積極的な参加を期する。
利用者のニーズや評価を的確に捉えて展示・普及事業ばかりでなく、その根幹をなす、調査研究や資料収集(保管・保存・補修を含む)においても、利用者の参加体験を交えた活動を行う。

■オープン収蔵庫

博物館の舞台裏を楽しく体験

■情報ライブラリー

県の中核博物館としてのネットワーク化



受付・ショップ
チケット売場・総案内カウンター



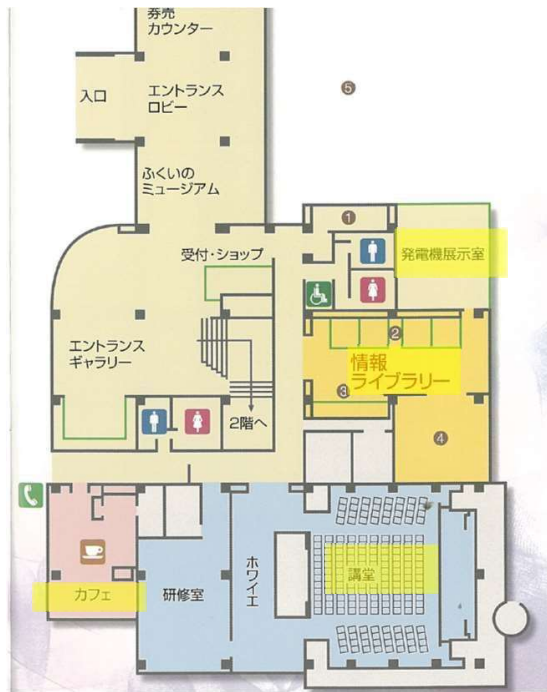
ふくいのミュージアム
県内外の博物館を紹介
(現在、検索モニター故障中)



エントランスロビー(無料エリア)



エントランスギャラリー(有料エリア)



講堂
各種講演会に使用



情報ライブラリー



発電機展示室



情報検索コーナー
(現在、検索用パソコン無し)



ビデオライブラリー
博物館オリジナルのビデオ番組
(ハイビジョン他)が視聴できる
(現在、5ブース中2ブースのみ稼働)



オープン収蔵庫1



オープン収蔵庫中2階
(現在、書庫。非公開)

オープン収蔵庫

博物館の舞台裏を紹介。
収蔵庫をイメージした
展示。

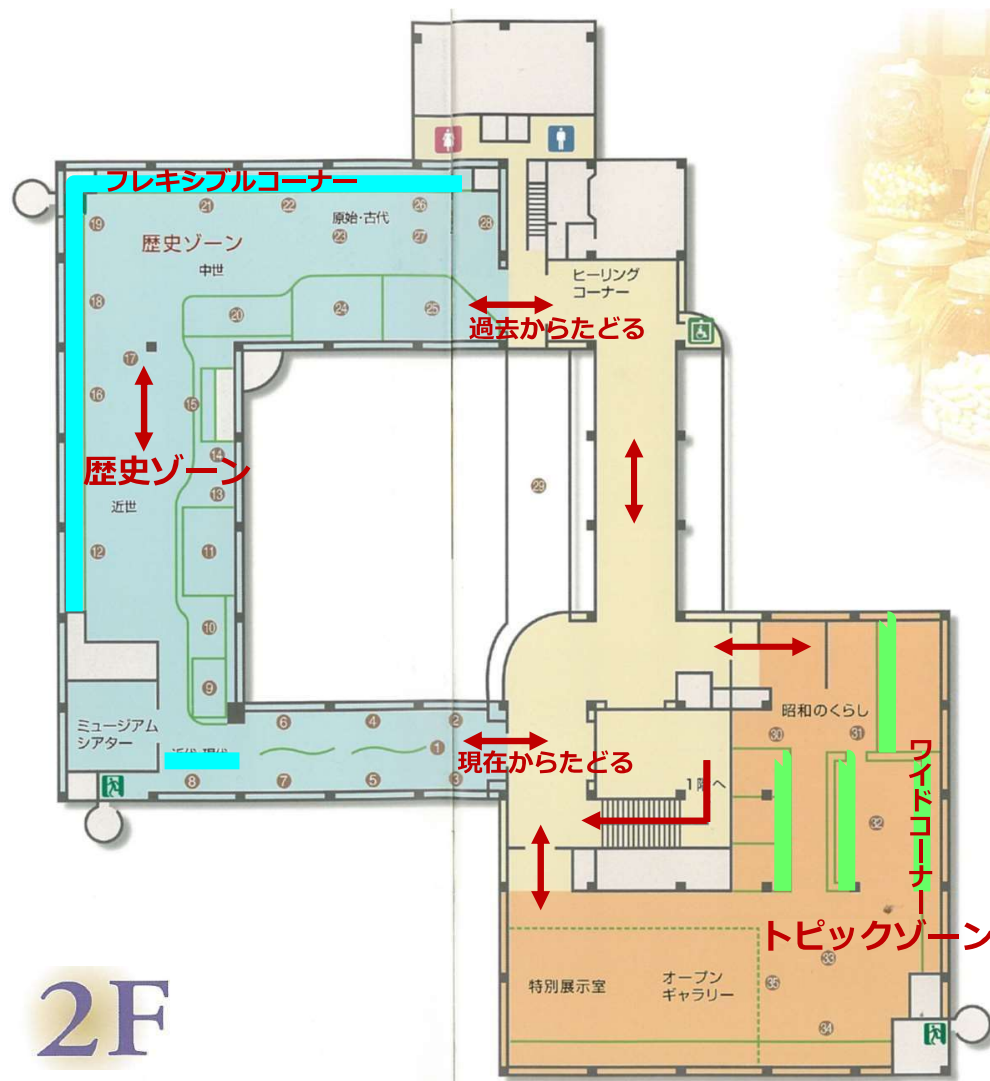


オープン収蔵庫2



資料作業室

整理・調査などの様子が見られる
作業室。(現在、非公開)



■歴史・文化遺産にふれ親しむ 憩いと学びの空間

県内外に数多く残されている貴重な資料を活用し、県民が地域社会の過去と現在を理解し、未来への思索を深め、次世代に向けて新しい地域文化を創造していく拠点とする

■「モノ重視」の展示

貴重な実物資料を活用する

■「歴史ゾーン」と「トピックゾーン」

多様な展示テーマに対応する2ゾーンを設定

■「自由選択動線」

過去からも、現在からも歴史がたどれる

■つねに変化をとげる 新しいタイプの地域博物館

これまでの博物館に対する、「固定的で変化に乏しい」というイメージを払拭し、利用者ニーズ、社会の動きに対応していく。

■歴史ゾーン「フレキシブルコーナー」

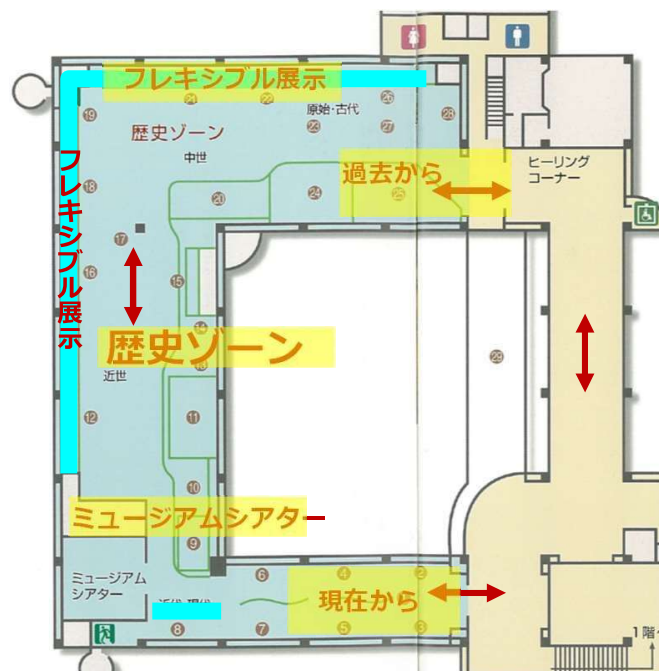
2～5年毎に展示テーマを更新

■トピックゾーンの「ワイドコーナー」

2～5年または、その都度展示テーマを更新

■「オープンギャラリー」

利用者と学芸員が共同して展示を企画・運営



歴史ゾーン(古代)

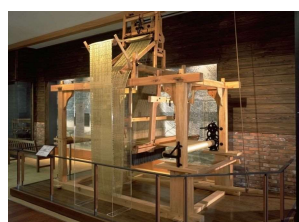


歴史ゾーン(現代)

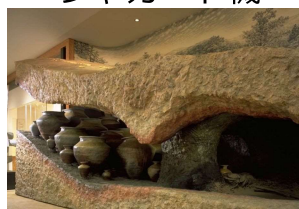
福井の歴史について、現代からも古代からも観覧できる。



ミュージアムシアター
昭和20～30年代の記録映像やオリジナル番組を上映。



ジャカード機



越前焼窯

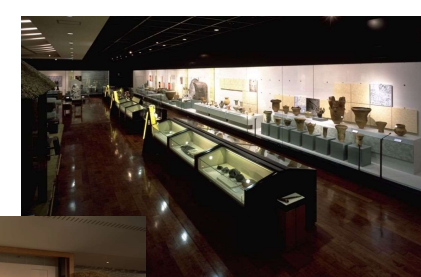


絵馬「夢楽洞」

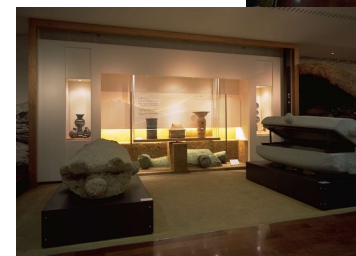


玉づくり

ものづくりの現場
各時代の「モノづくりの現場」を大型原寸ジオラマで再現。



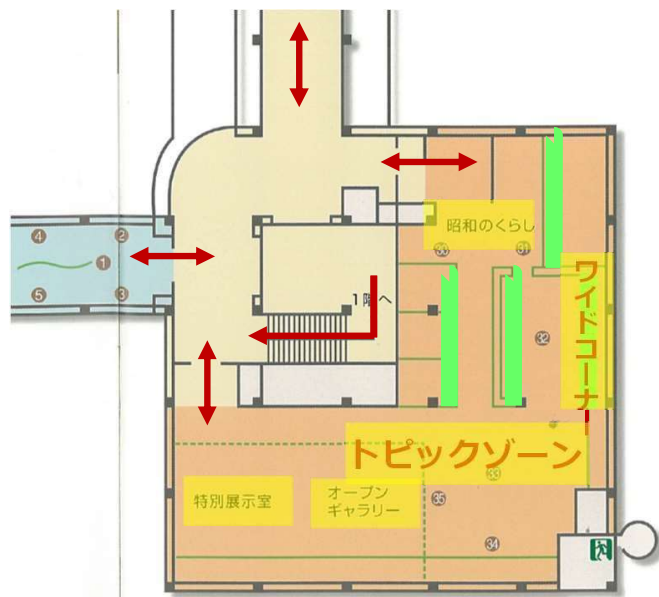
原始・古代



古墳

フレキシブル展示

毎年新収蔵資料や研究成果を展示に反映。(ハイケース、のぞきケース)



町の暮らし（食堂、駄菓子屋）



村の暮らし

トピックゾーンの「昭和の暮らし」 昭和30～40年代を再現した人気のコーナー



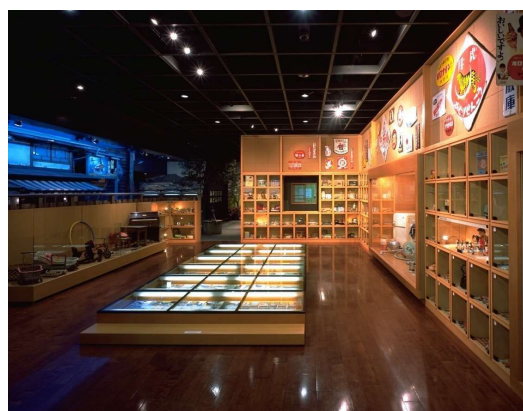
R 2年特別展示「天下人の時代～信長・秀吉・家康と越前～」



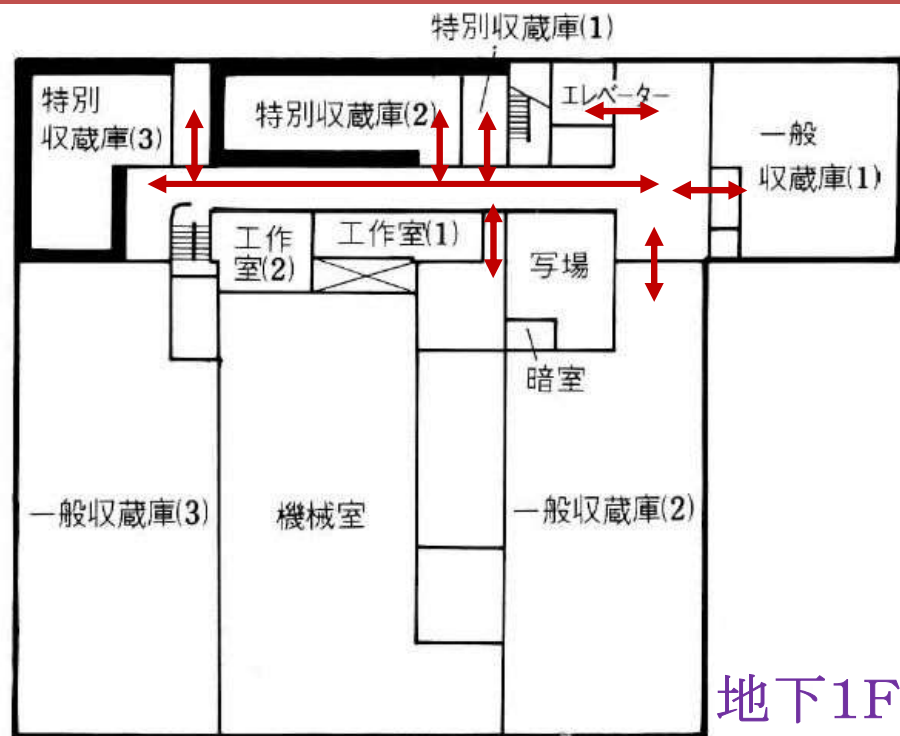
R 3年企画展「越前・若狭 願いの形」
「特別展示室」



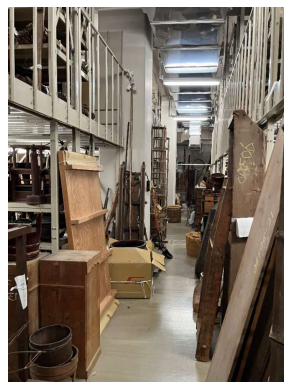
マイカー



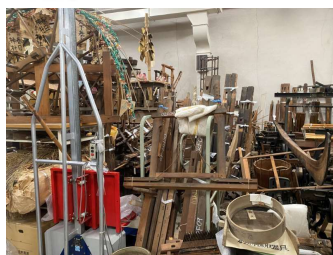
トピックゾーンの「ワイドコーナー」 2～5年または、その都度展示テーマを更新



特別収蔵庫 (3)



一般収蔵庫 (2)



一般収蔵庫 (1)



図書室 (1F)

V事業 (P6~7)

■2 資料収集

○資料収集(保管・保存・補修を含む)は、調査研究とともに展示や普及事業の基盤となる事業である。調査研究と同じく中・長期的な計画のもとに事業を継続しなければならないが、資料収集の場合は散逸や流失、破壊等の緊急事態に対応できる体制をとっておく必要がある。

○収集する対象は、福井県の歴史・文化にかかわる諸資料(実物あるいは映像や音声、これに関する図書・文献等を含む)とする。その際、福井県と直接的に関わりのないものであっても、展示や調査研究のうえで必要となる比較・参考資料は対象に含める。さらに、実物の収集が不可能であったり、現状の記憶が必要な場合等にあたっては、複製資料等の製作をもってこれに充てる。

○資料収集にあたっては、県内資料の流失を防ぐことを留意し、市町村や他機関と連携して、現地での保存と活用の方策を講ずることも必要である。また、流失した文化財についても、できるかぎり還元につとめてはならない。

○収集した資料は、適切な保管・保存措置を行うと同時に、できるだけ展示や公開の機会・場を増やすように心がける。また、将来の収集事業を見通して、収蔵庫狭隘化の対策を講ずる必要がある。

「福井県立歴史博物館基本構想・計画検討報告書」

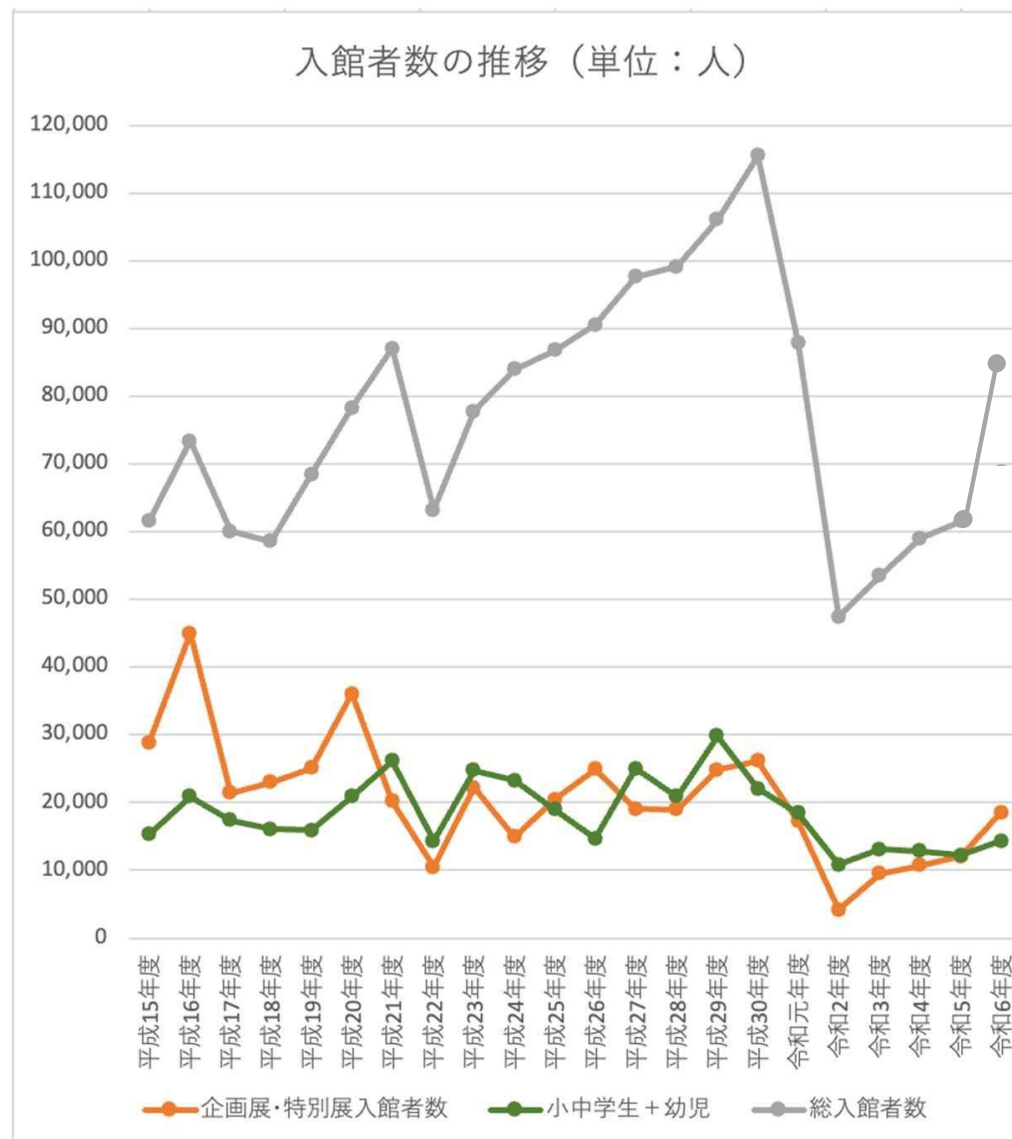
1-5. 面積表

1984年(昭和59年)に福井県立博物館として開館。 その後、2003年(平成15年)3月12日に福井県立歴史博物館として開館				収集・保存	地下1階工作室(1)	42.93		
構造・階高					地下1階工作室(2)	44.63		
鉄骨鉄筋コンクリート造 地上2階、地下1階					地下1階スタジオ/暗室	68.63		
敷地面積					15,000㎡			
建築面積					4,373.00㎡			
延床面積					9,116.35㎡			
展示面積					2,867.92㎡			
収蔵面積					1,382.98㎡			
収蔵面積÷展示面積				48%				
各施設の面積等								
機能	各施設	面積(㎡)	備考	サービス・共通スペース	1階エントランス	383.09		
展示・普及	1階展示ホール	309.16	展示室として計上		1階学芸室図書室	172.16		
	1階オープン収蔵庫	507.09	展示室として計上		1階研究作業室(1)～(4)	252.59		
	1階休憩室	16.00			1階館長室管理室	321.76		
	特別展示準備	74.49			1階廊下・トイレ外	758.26		
	1階講堂・ホワイエ	257.02			2階ロビー	306.95		
	1階研修室準備室	100.67			2階通路	144.09		
	1階情報ライブラリー	169.72			2階トイレ・倉庫等	219.82		
	2階展示室	2,000.48	展示室として計上		地下1階廊下、倉庫、トイレ	340.95		
	2階展示準備室	51.19	1階オープン収蔵庫とあわせて 小計 2,867.92㎡		サービス・共通機能 小計	2,899.67		
	展示・普及機能 小計	3,485.82			その他	塔屋	132.29	
収集・保存	1階車庫荷受場外	273.78	収蔵庫面積 小計1382.98			自転車棟	72.00	
	地下1階特別収蔵庫(1)	23.06						
	地下1階特別収蔵庫(2)	129.93		その他機能 小計		204.29		
	地下1階特別収蔵庫(3)	131.72						
	地下1階一般収蔵庫(1)	180.64						
地下1階一般収蔵庫(2)	449.19							
地下1階一般収蔵庫(3)	468.44							
総合計					9116.35			

1-6. 入館者数の推移(リニューアル時より)

- リニューアル以降、順調に入館者数は増え、ピーク時（平成30年度）には11.5万人を超えた。
- コロナ禍により令和2年度以降、入館者数は落ち込むが、コロナ禍あけ以降、回復基調にある。

	企画展・特別展入館者数	小中学生＋幼児	総入館者数
平成15年度	28,801	15,321	61,558
平成16年度	44,983	20,895	73,405
平成17年度	21,410	17,362	60,037
平成18年度	22,982	16,071	58,556
平成19年度	25,124	15,943	68,442
平成20年度	36,055	20,914	78,332
平成21年度	20,208	26,182	87,013
平成22年度	10,484	14,316	63,189
平成23年度	22,195	24,790	77,762
平成24年度	14,915	23,249	83,968
平成25年度	20,443	18,951	86,827
平成26年度	24,901	14,663	90,550
平成27年度	19,061	25,008	97,638
平成28年度	18,983	20,935	99,142
平成29年度	24,867	29,837	106,046
平成30年度	26,126	22,000	115,534
令和元年度	17,257	18,474	87,796
令和2年度	4,211	10,831	47,426
令和3年度	9,524	13,132	53,519
令和4年度	10,700	12,806	58,997
令和5年度	12,040	12,218	61,536
令和6年度	18,535	14,305	85,641



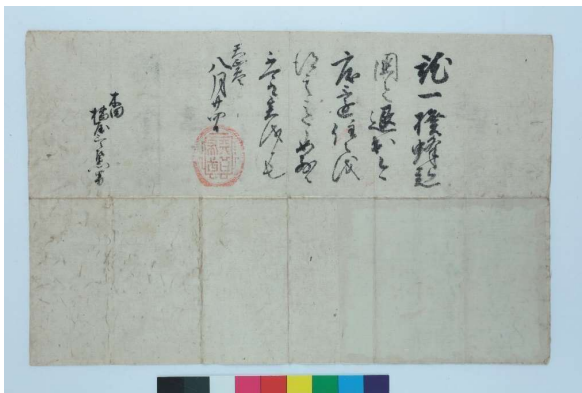
福井県立歴史博物館所在指定文化財一覧

指定区分	名称	数量
国指定重要文化財	絹本著色 観経变相曼荼羅図	1幅
	西福寺一切経勸進経	25巻
	紙本墨書 般若心経二条持基筆	1巻
	孔雀鎗金経箱	1合
	※木造泰澄及び二行者坐像	3軀
県指定有形文化財	木造 阿弥陀如来坐像	1軀
	木造 広目天立像	1軀
	木造 多聞天立像	1軀
	木造 阿弥陀如来坐像	3軀
	木造 聖観音菩薩坐像	
	木造 大日如来坐像	
	橘家文書	554点
	八十一難経版本	3冊
	八十一難経版本	6枚
	刀 銘 越前国康継	1口
	刀 銘 長曾祢興里入道帛徹	1口
	太刀 銘藤嶋	1口
県指定有形民俗文化財	刺繍 種子胎蔵界中台八葉院曼荼羅	1幅
	松喰鶴鏡	1面
福井市指定文化財	鎌のコレクション	257点
福井市指定文化財	石棺	1個

※は長期借用を示す

福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○**橘家文書** 945点 福井県指定有形文化財含む
福井市西木田の薬商人・医者橘家に伝来した文書群。朝倉義景・織田信長・柴田勝家など戦国時代の武将の手紙を含む。中世～近世の福井の政治史・都市商人の動向を知るうえで極めて重要。



織田信長朱印状

○**姉川合戦図屏風** 1点93.0×280.0cm 天保8年(1837)作
元亀元年(1570)に織田信長・徳川家康軍と浅井長政・朝倉義景軍が姉川(滋賀県長浜市)で戦った様子を描いた現存唯一の屏風。



○**由利家資料** 196点

福井藩士・由利公正の家に伝来した資料群。松平春嶽・横井小楠・由利公正・西郷隆盛など幕末維新期の偉人の資料を含む。幕末維新の福井藩を知るうえで極めて貴重。

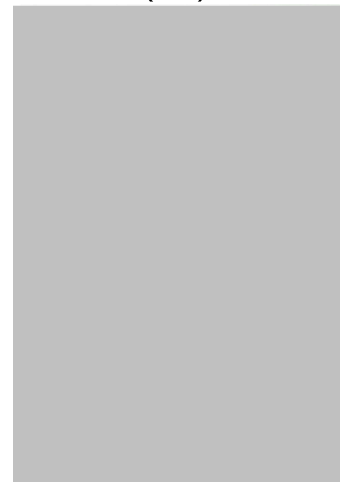


由利公正肖像



由利家シルクハット

○**木造 阿弥陀如来坐像** 1 軀
八幡神社(当館寄託) 県指定文化財
平安時代 像高(cm) 176.6



福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

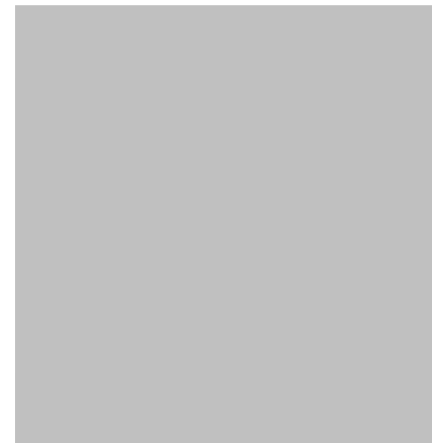
○刀 銘 (表)長曾祢興里入道希徹

刃長70.6cm 寛文頃 福井県指定有形文化財
新刀第一の名工、長曾祢興里（初代虎徹）による作刀。



○絹本着色 観経変相曼荼羅図

（当麻曼荼羅） 1 幅 西福寺（当館寄託）
国指定重要文化財 鎌倉時代
法量(cm)185.5×184.8



○刺繍種子胎蔵界 中台八葉院曼荼羅

1 幅 県指定文化財
高岳山（当館寄託）
南北朝時代（14世紀）
様々な色糸を用いて刺繍であらわされた胎蔵界中台八葉院の種子曼荼羅である。中世繡仏の遺例が浄土教関係の尊像、種字が多いなか、本品のように密教の曼荼羅をあらわすものは珍しく大変貴重である。



○「野良着」など

紋付着物や、野良着、袴などの衣類および扇、筭。とくに野良着（農家の仕事着）の特徴は岡保村史の記述とも一致し、当地域のかつての生活の様子をうかがうことができる。



福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○県民の生活の様子ที่わかる生業道具

昭和30年代の畔草はぎ(1)、踏鋤(1)、手鉤(1)。



○県民の生活の様子ที่わかる生業道具

藍の型染の型紙。明治期以降の品を含む。丸岡町付近の染物屋で使用されたもの。



○「福井県民謡資料」 7点

県内で採譜された民謡に関する資料。

- ・ファイル2冊(嶺北49曲、嶺南31曲)。
- ・「福井県の民謡」(採譜・編集田辺修一郎、平成6年、私家版)1冊。
- ・クリップ止めされた原稿2冊(嶺北53曲52頁・嶺南31曲(32頁))
- ・表紙デザイン2部。



○「ダイジョコサンの堂」 1点

県民の生活に根付いた信仰道具。供物として大根やオコワを供えた。



○「唐箕」



○斎藤優コレクション 約200点

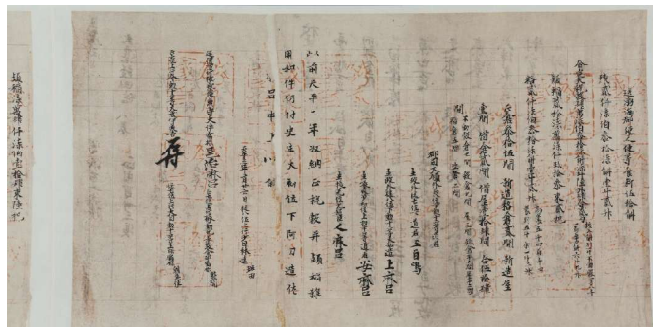
戦後における福井県の埋蔵文化財の調査をけん引した斎藤優氏のコレクション。斎藤氏が県内や国外の遺跡で採集した考古資料などで構成される。



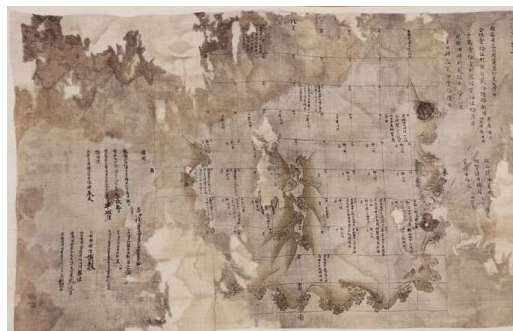
福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○奈良時代の越前国公文、荘園絵図類（複製） 7点

奈良・正倉院に伝来する奈良時代の越前国の公文書や絵図などの複製。奈良時代の越前国の社会や荘園の様子、都との関係性がわかる資料。実物を見学する機会は毎年秋の正倉院展（10数年に1回程度）に限られるので、複製であっても貴重である。



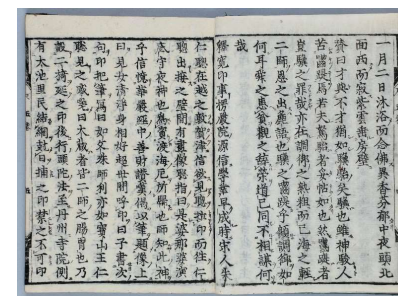
越前国大税帳



東大寺開田地図
越前国足羽郡糞置村開田図

○奈良～鎌倉時代の歴史書、法制資料の出版本

奈良時代から鎌倉時代にかけて編纂された歴史書、法制資料などの出版本（江戸時代）当該期の若狭・越前国の政治・社会・宗教に関連する記述を収録しており貴重である。



○戦時期生活・空襲関連資料

アジア・太平洋戦争中の生活に関連する文書や軍事教練で使用した木銃、代用品の陶器製品、防空電球など。また、焼夷弾の筒、空襲時の写真など、福井空襲に関連する資料を保管している。これらは常設展示で展示するほか、県内学校の平和学習に利用されている。



焼夷弾の筒と奉公袋

○県政ニュース・県内企業のCMなどのフィルム類

戦後期の県政ニュースのフィルム等を収集したもの。常設展示のミュージアムライブラリーで定時に上映しているほか、随時デジタル化を行っている。



県政ニュース フィルム

○県内外の鉄道関連資料

福井駅の案内看板やおみやげの看板、電車の行先表示、駅弁の掛け紙、ダイヤグラムなど、福井県内外の鉄道に関連する資料。鉄道関連の特別展や常設展で展示したほか、写真展でも利用したことがある。



列車案内板

福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○福井国体（第23回、第73回）関連資料

昭和43年（1968）に福井県内で開催された国民体育大会に関連する資料群。福井国体は、福井県を対外的に売り込むとともに、県内のインフラ整備などにもつながった戦後史の画期であり、関連する資料は貴重である。国体に関連しては、平成30年（2018）に福井県内で開催された第73回の関連資料も収集した。



第23回大会 歓迎旗

第73回大会
馬術競技 メダル・リボン

○現代広告資料

近現代史の分野においては、後世に残すべき現代の資料の収集も重要な使命であると考えている。新聞折込広告は、それらの持つ情報量（物価、流行、商業規模など）に比して、保存されることは殆んどない。新型コロナウイルスの流行を契機として、県内企業や店舗等に関連する折込広告を収集している。



収集した折込広告

○山田保治民藝コレクション

今立出身の昆虫学者、山田保治氏が蒐集した民藝コレクション。陶磁器132点、型紙70点など計277点の資料からなる。本資料は良質な民藝コレクションであるとともに、京都における初期の民藝運動について検討する上で欠かせない重要な資料群である。



○越前壺（14世紀）

越前町織田に所在する法楽寺中世墓から出土したと伝わる小壺。越前窯製品としては珍しく、刻画文が刻まれており資料的価値が高い。同遺跡からは特殊器種が多数出土したが、大部分が盗掘によって散逸したため貴重な資料である。



○三石入甕（15世紀）

室町時代の越前窯で生産された大甕。越前窯で大甕・大壺の生産が開始される15世紀の製品で、大甕が完形品で伝世する例は珍しく資料的価値が高い。



福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○新溜古墳出土石棺（6世紀初頭、福井市指定文化財）

福井市篠尾町に所在する新溜古墳から出土した石棺。出雲地方の影響を受けたとされる鯨形の舟形石棺で、福井市指定文化財となっている。当館は他に長さ2.5メートル程度の石棺6点を所蔵・保管している。



○山本昭治氏採集資料

石造物研究者であった山本昭治氏が採集した考古資料。15箱に瓦や板碑、県内各地で採集した陶磁器片が収められている。敦賀市沓見で採集された甗は国産須恵器であれば県内で最古級、朝鮮半島産陶質土器であれば国内でも珍しく貴重な資料である。



○県内出土銅鐸群の複製資料

福井県内で出土したもの、県外へ流出した銅鐸の複製資料。福井県は日本海側の銅鐸出土北限の地であり、重要な資料である。複製資料のため、原資料に比べて展示や貸出が容易というメリットがある。



○越前国大絵図 縦184cm、横200cm

越前国を描いた安永年間（1772～1781）の絵図。集落の位置のみならず、各藩の歴史や、名所を詠んだ和歌が絵図外周に記されているほか、著名な城跡や名所などを記号で示すなど、当時の名所や人々の居住地が判明する貴重な資料。



福井県の歴史・文化に関わる諸資料を収蔵

○福井県下商工便覧 縦8cm、横18cm

福井県内の商工業者や医者などを紹介した携帯用の小冊子。明治20年（1887）発行。近代をむかえて間もない市街の景観や人々の様子が250枚余りの銅板画として詳細に描かれており貴重。



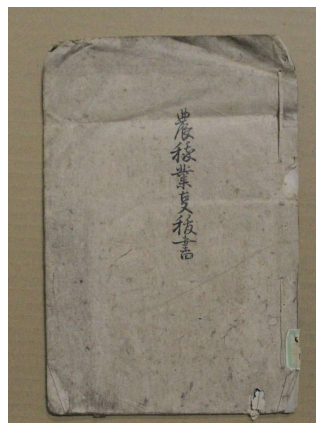
○川舟 長さ760cm、幅110cm、高さ68cm

現在九頭竜川下流沿岸に残る6艘の川舟のうち唯一木造のもの。かつて当たり前に行われていた川舟での移動や流通を考えるうえでも極めて貴重な資料。



○農稼業事抜書 縦22cm、横15cm

江戸時代の代表的な農書「農稼業事」を引用・要約したもの。福井藩より各村に配布されたもので、越前国内における農業技術やその改良点がうかがえる貴重な資料。



○越前国名蹟考 縦31cm、横39cm

全13巻からなる、越前国における地誌の集大成。文化12年（1815）成立。江戸時代の越前国内の地理や集落について詳しく判明する貴重な資料。



■ 経緯

幾久公園は、1950年(S25)に県営総合運動公園として開園し、スポーツ振興のため使用が開始された。その後、1984年(S59)に、県立博物館が立地するレクリエーション空間のある地区公園として再整備された。

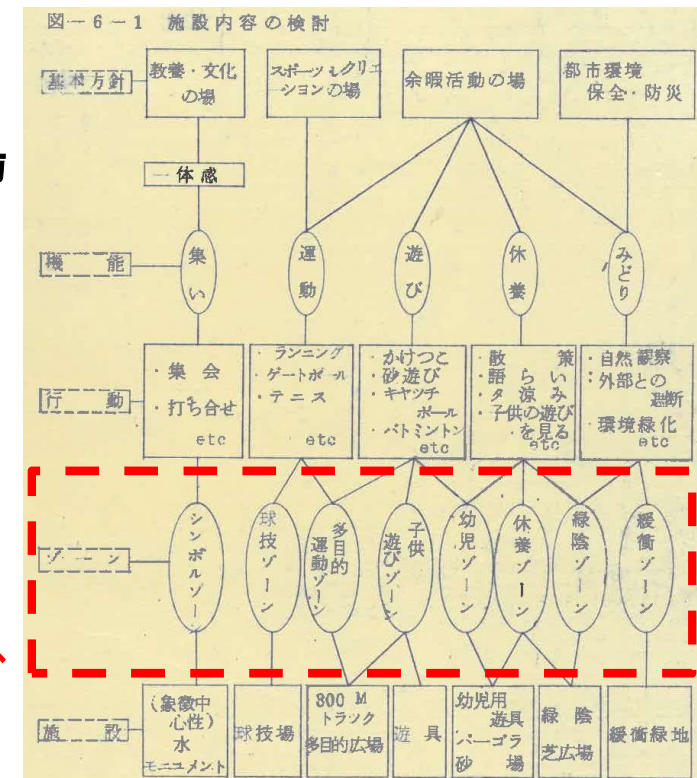
■ 基本方針

以下の4点を計画の柱とし、個々の機能を満足させると同時に相互の調和を保ち、公園として一体感を有する施設配置及びデザインを行うことを基本方針とした。

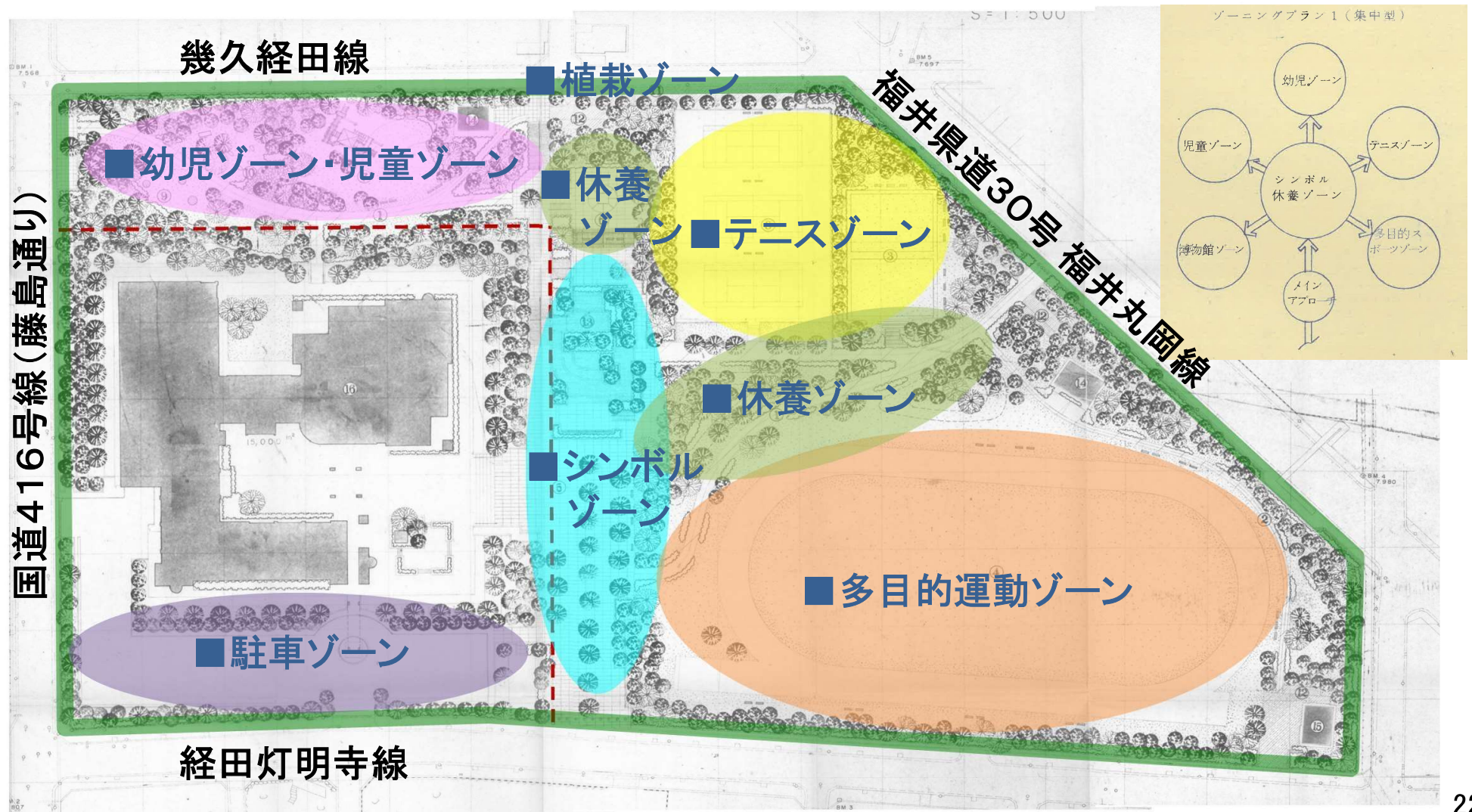
- ①スポーツレクリエーション活動の場
- ②博物館を併設することから教養文化の場
- ③地区住民に対する余暇活動の場
- ④都市環境保全と防災の観点から
緑の供給の場

4つの基本方針から諸機能及びゾーニング、施設内容に至る流れを右図のように導き出した。

ゾーニング



ゾーニングプランは、「シンボルゾーン」「休養ゾーン」を中心に位置付け、「多目的スポーツゾーン」「駐車ゾーン」「幼児ゾーン」「児童ゾーン」「テニスゾーン」「植栽ゾーン」を周囲に配置している。各ゾーンの主たる休養機能を、中心に集中させることで一体感をつくり出す配置とした。



■シンボルゾーン

本公園の中心施設として、また公園及び博物館の導入部として、奥行と景観の変化をもった形態とした。

アプローチは、博物館・公園共用空間適地と経田灯明寺線との接続をメインとした。



メインアプローチ



噴水広場

■多目的運動ゾーン

公園計画の主条件の一つに「県営総合運動公園の運動諸施設の機能を受け継いだ公園(300mトラック)」であることから、300mトラックを中心に、インフィールド内(芝広場)を各種スポーツ活動の場とした。

平日は早朝からグランドゴルフやウォーキング、幼児・児童の遊び・散歩、夕方に高校生の部活動、休日は家族連れで遊ぶ姿が見られる。



グランドゴルフ、
ウォーキング利用



幼児や児童の遊び・散歩

■テニスゾーン、自由芝広場

県営総合運動公園時代に設置されていたテニスコートを受け継いでいる。
公園施設がスポーツ活動志向に偏ることを避け、スポーツレクリエーション活動対象者を高齢者にまで広げる意味からゲートボール場（自由芝広場）を導入した。

現在、自由芝広場は現在ゲートボールで使われていないが、テニスコートは月300～400人、年3000人以上に利用されている。



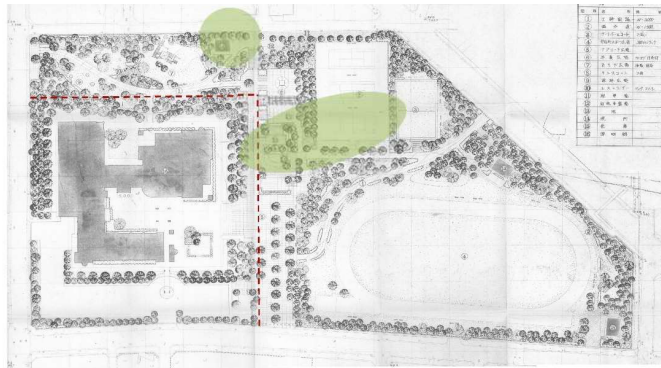
4月～10月は朝6時から利用可能



現在使われてない自由芝広場

■休養ゾーン

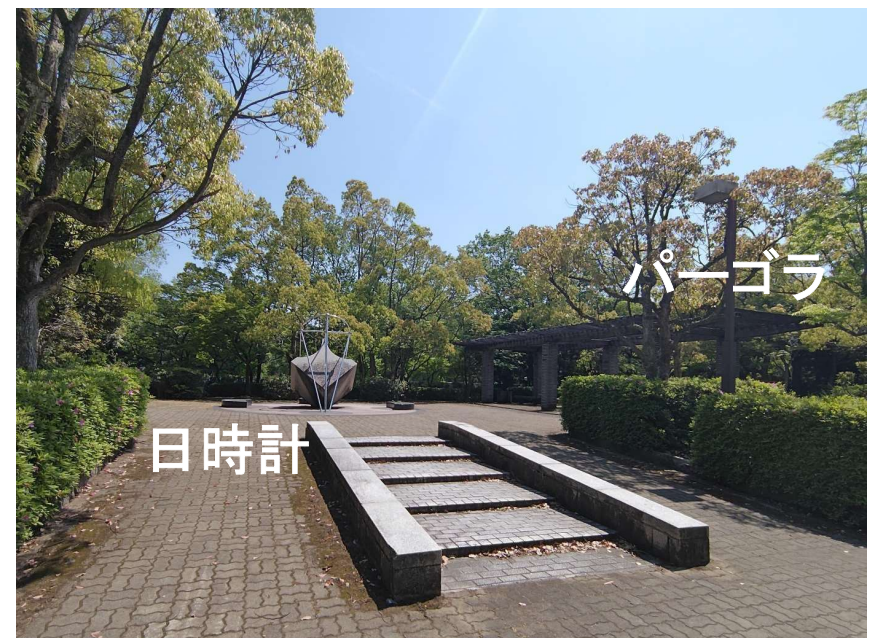
シンボルとの分離によって静的空間の確保を計る。



緑陰とベンチ



トイレ



日時計

パーゴラ

■ 幼児ゾーン・児童ゾーン

圏内既設児童公園では得られないスケールの大きな施設導入を計る。位置は、遊び場としての独立性を計り、北側に子連れ家族が多く来訪する商業施設が立地することを踏まえて、博物館北面のコーナーとする。



複合遊具は老朽化のためR6に撤去済、スプリング遊具が残る



商業施設が隣接する北側入口

■ 植栽ゾーン

外縁部のうち3面が幹線道路と接する関係上、騒音等に対し緩衝用植栽帯が必要であり、300mトラックと「経田灯明寺線」及び「福井県道30号 福井丸岡線」と間での緩衝ゾーンの層が薄く、これを層を厚くした。



福井県道30号 福井丸岡線



経田灯明寺線

■ 駐車ゾーン

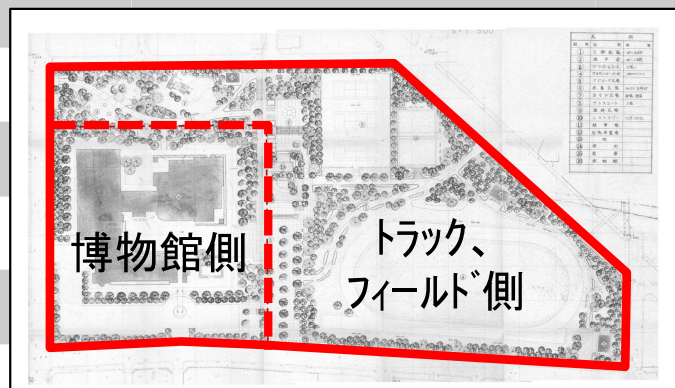
駐車場は、博物館利用者及び公園利用者共用とし、自動車交通量が少なく、道路幅員が16m、北側に子連れ家族が多く来訪する商業施設が立地することを踏まえて、経田灯明寺線沿いの敷地北西側とした。



2-3. 面積表

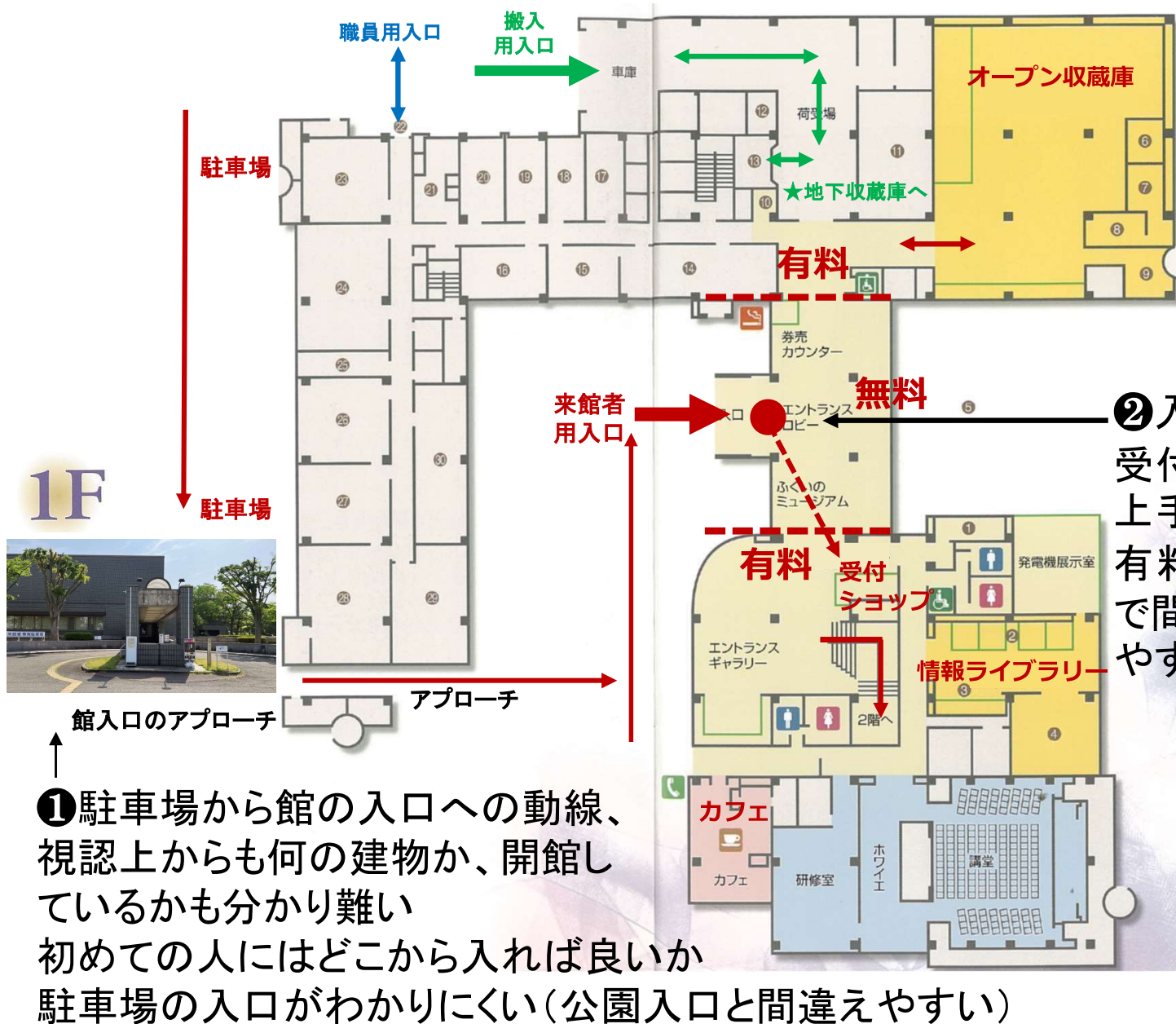
幾久公園

	博物館側	トラック、フィールド側	計
1. 敷地面積	15,796m ²	23,418m ²	39,214m ²
2. 芝生面積	6,957m ²	13,569m ² (フィールド5,428m ² 含む)	20,526m ²
3. 植込面積	4,880m ²	3,800m ²	8,680m ²
4. 園地面積	3,907m ²	—	3,907m ²
5. 建物面積	52m ²	131m ²	183m ²
便所2棟	(52m ²)	(53m ²)	(105m ²)
倉庫1棟		(78m ²)	(78m ²)
6. 競技場面積		11,346m ²	11,346m ²
陸上競技場		トラック(2,863m ²)	(2,863m ²)
ゲートボール場		フィールド(5,428m ²)	(5,428m ²)
テニスコート場		(747m ²)	(747m ²)
		(2,308m ²)	(2,308m ²)
7. 植栽	10,623本	3,716本	14,339本
高中木	(745本)	(808本)	(1,553本)
低木	(9,878本)	(2,908本)	(12,786本)



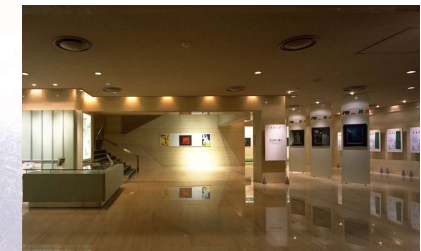
博物館、公園の課題

「動線・視認性の課題」



エントランスロビー(無料)

②入口から右側奥の
受付も視認性の影響か、
上手く人が流れていない。
有料、無料のエリア設定
で間違いや勘違いが起き
やすい



エントランスギャラリー(有料)

「館と園の相互活用」「親近感の課題」



エントランスロビー

①活動や催しなどで、博物館と公園の一体的利用が少ないように感じられる。



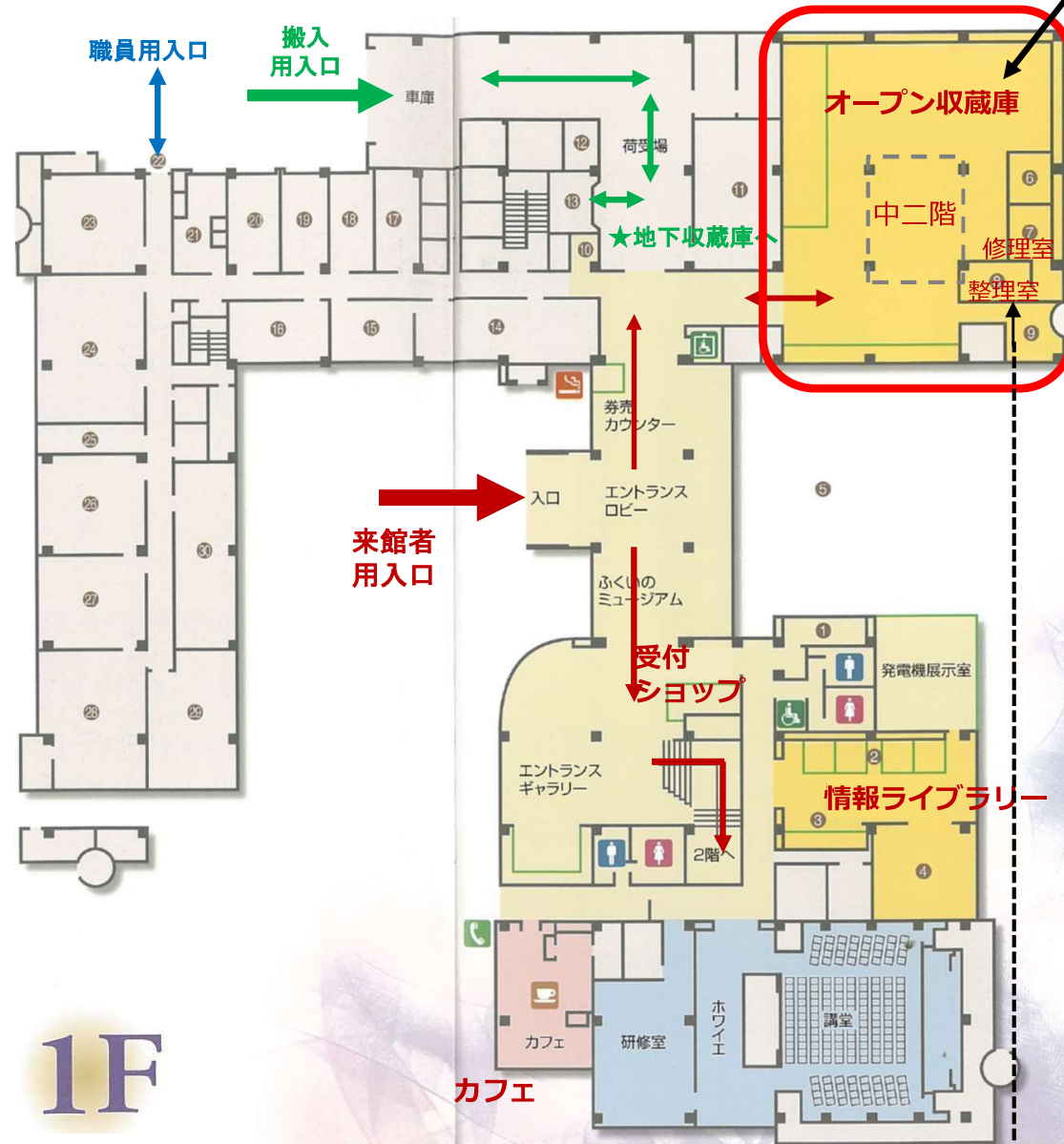
公園側から博物館の入口をみる

②公園側から入口をみて、館で何をやっているか認識しにくい。入口の敷居が高く気軽さや親近感を感じにくい

③防犯上、カフェから講堂への通路を閉じるため。来館者がカフェを利用しづらい



「オープン収蔵庫の課題」



①現状は、常設展示の民具のスペースが足りないので、民具の展示スペースとなっている。

②文化財の展示には、温湿度などを大型ガラスに仕切った内部の保存環境を整える必要がある。

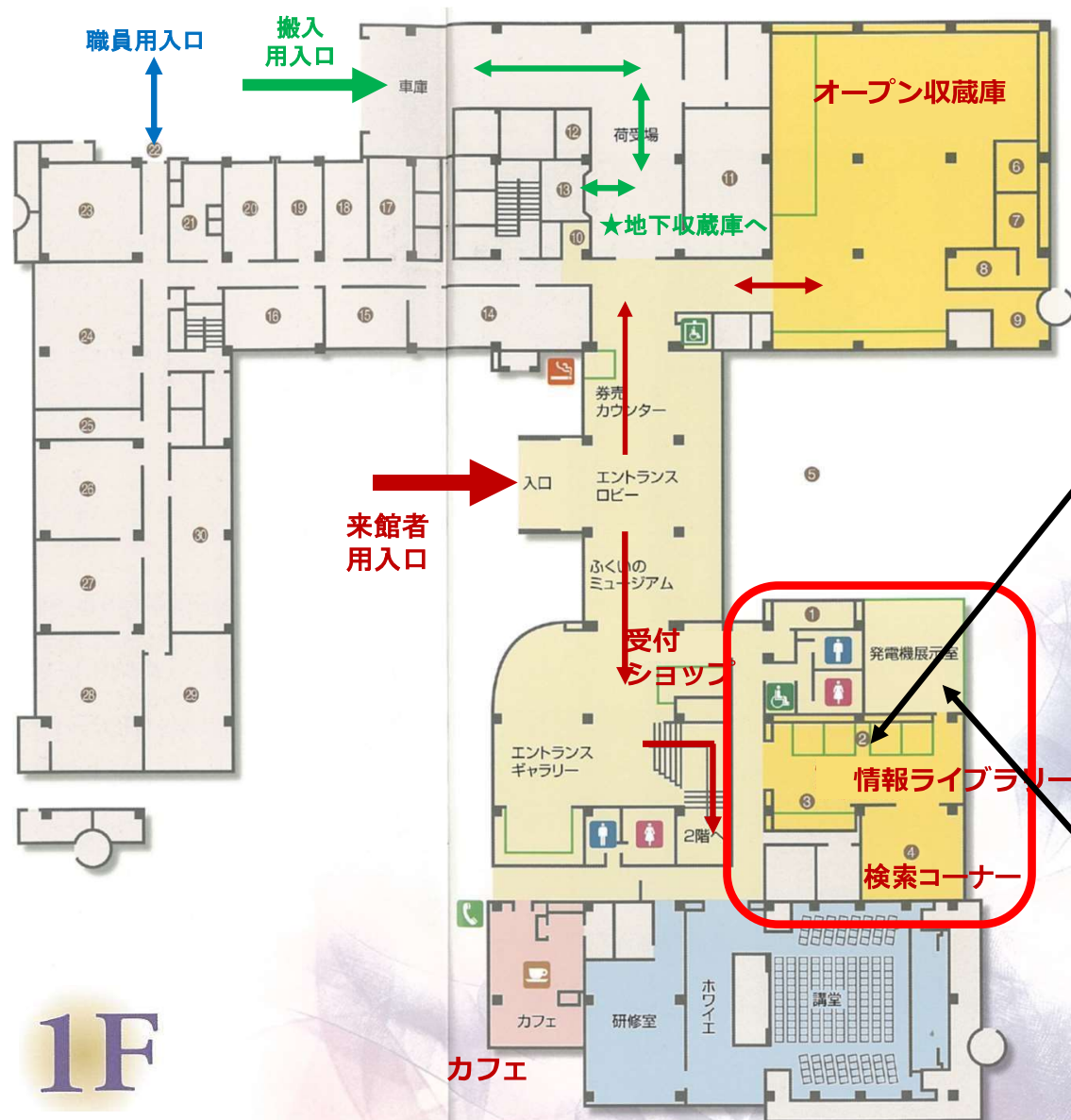
③現状のオープン収蔵庫は、本物の収蔵庫にある「奥行きと物量」が無いので本物の驚きや感動が伝わらない。

④福井でよく使う農具、繊維関係が多いが、「福井独特の文化財の特徴や福井らしい風土・文化・歴史」を打ち出すことで文化財に親しむ場になる。

⑤アンケートで利用者から触れる体験展示への要望がでていますが未対応。悩みは壊されることや人員不足。

⑥整理室、修理室、中二階は、現状物置になっている。

「情報ライブラリーの課題」



情報ライブラリー

①利用する県民は少ない。

②故障中の機器が多い。

映像モニター、検索機の故障対応や旧式の照明の灯具替えが出来ない状況。

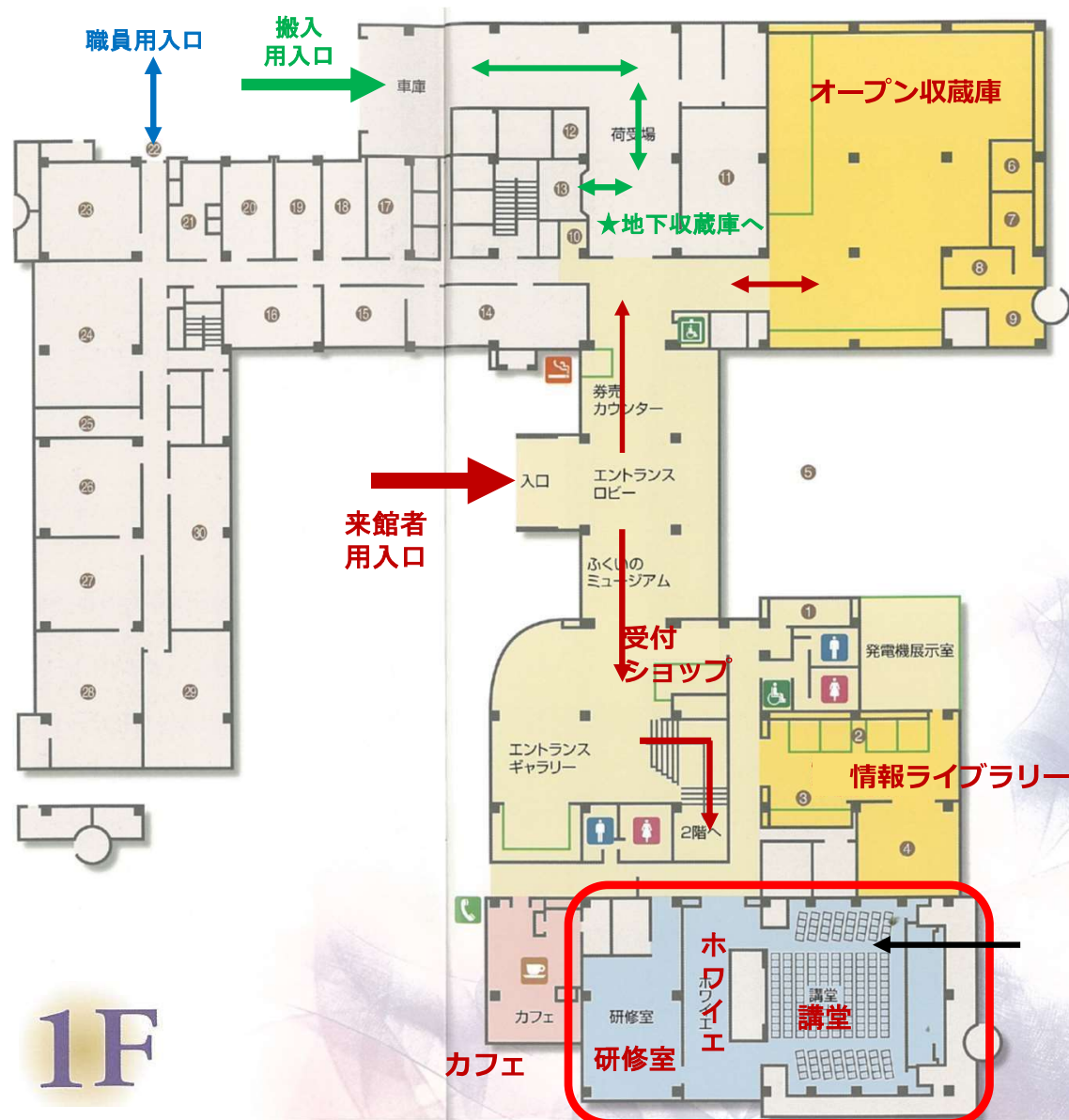
③ソフト更新がされていない。

現状公開している映像ソフトは7本あるが、継続的な新規ソフトの供給と公開がされていない状況。

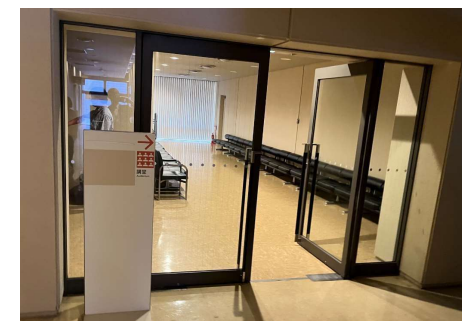
発電機展示室

①動線や視認性の問題から見る利用者は少ない状況

「講堂他の課題」



講堂



ホワイエ

① 席数160席。音響設備は良好だが、演舞の際に舞台の奥行きが足りないなどの民俗芸能の実演には使いにくいことを確認

② ホワイエは、小学生団体のお弁当スペースにも活用している

「歴史ゾーン、トピックゾーンの課題」

①文化財の保存

夏場の過酷な温度上昇により
室内の温湿度環境に影響が及
ばないように、内外の断熱効
果を高める必要がある。

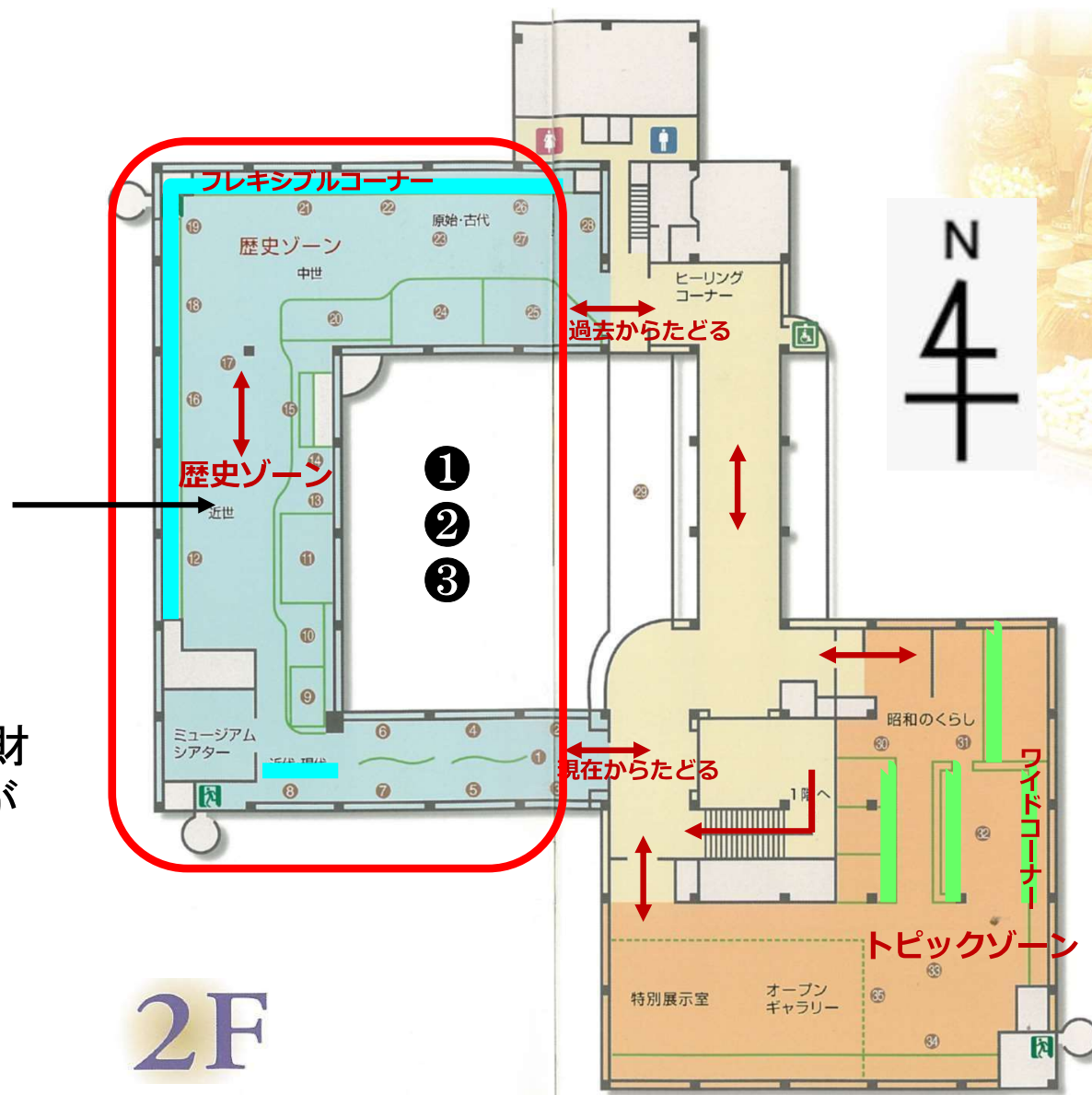
H15年改修時は、一部内断熱の
処理を実施したが、温度環境の
変化に追いついていない

②文化財の活用

博物館法の改正に伴い、デジタ
ルアーカイブ技術の活用した展示
公開や体験用レプリカなど、文化財
を積極的に学びに活用する必要が
ある

③バリアフリー

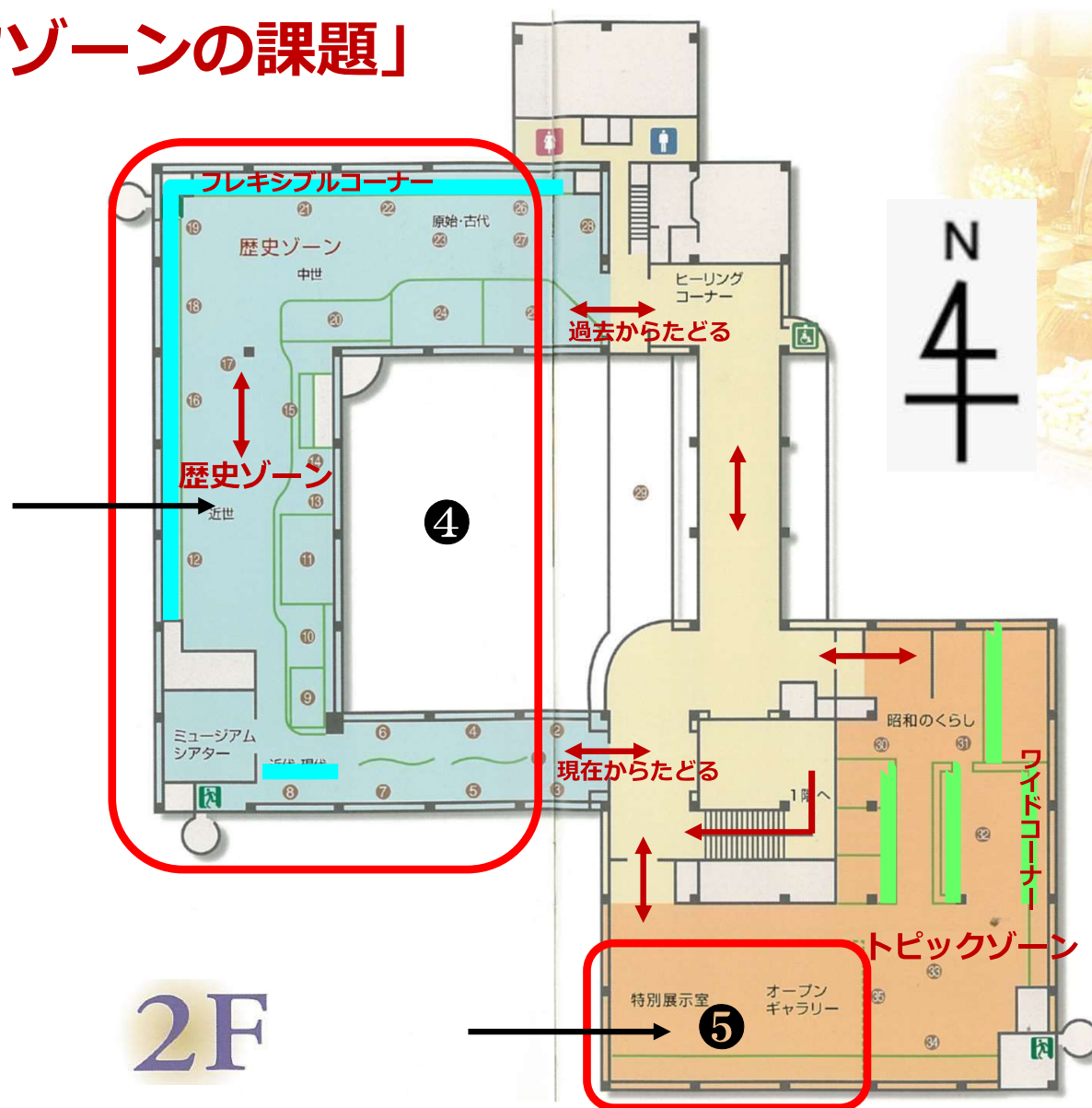
車椅子の利用者が見易い覗き
ケースの高さ。小学3～4年にも
見易い高さ設定を検討したい

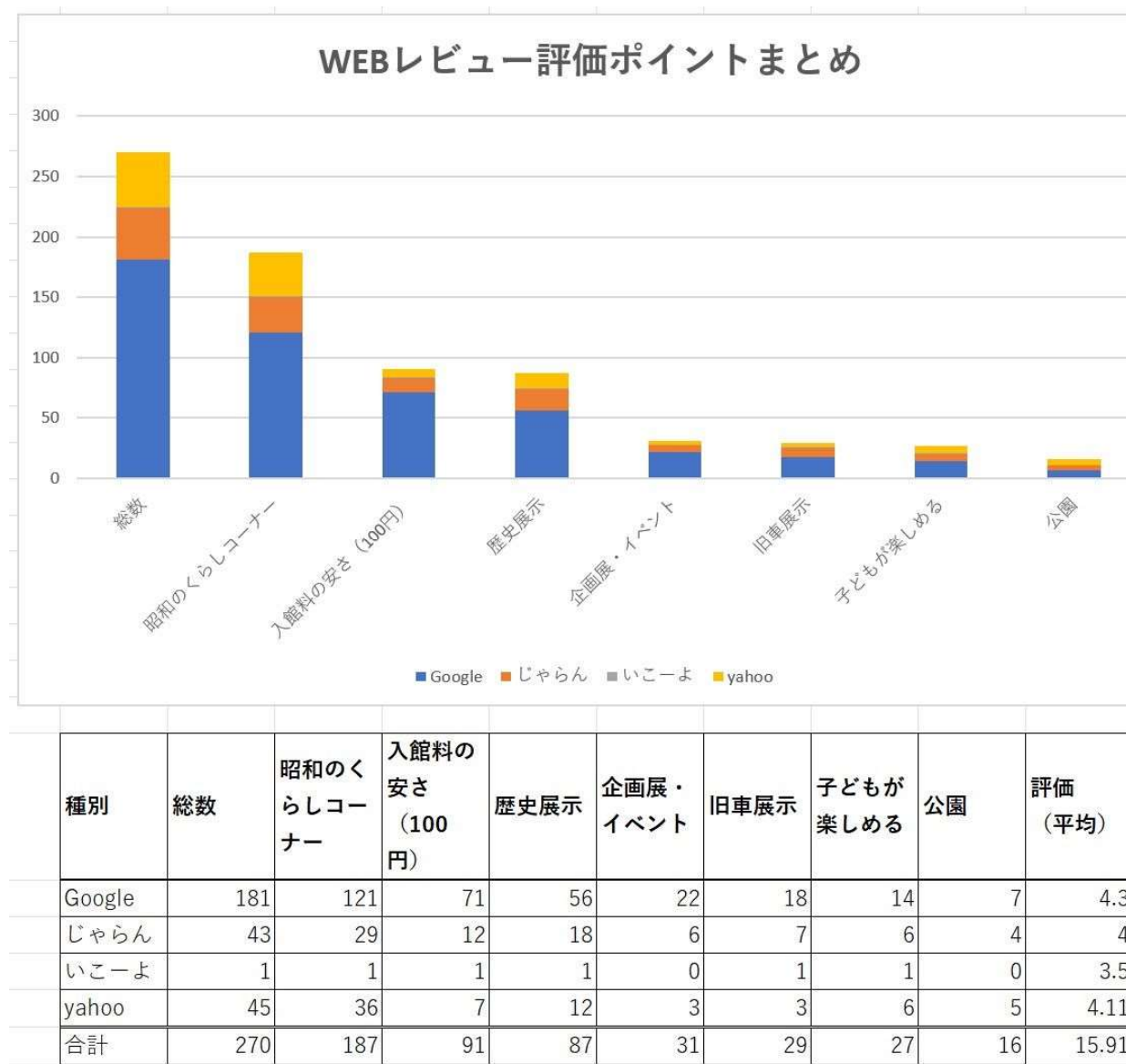


「歴史ゾーン、トピックゾーンの課題」

④ターゲットと展示手法の改善
現状の解説文は、中学生レベルの内容となっている。

⑤老朽化
特別展示室のレールが構造部も含め故障寸前の状況。長寿命で汎用性の高い機器への更新が必要。





- ①昭和のくらし、ついで入館料の安さと歴史展示の順となっている
- ②公園や子どもの満足度が低い

「収蔵庫他の課題」

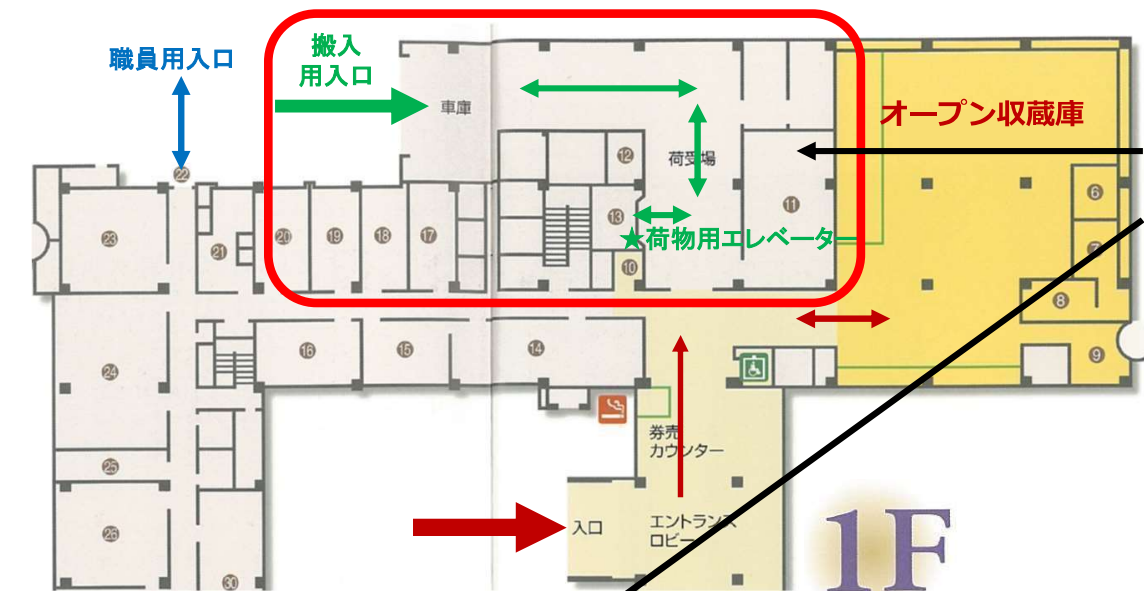
- ① 新規の受入れが出来ない状況
- ② 荷物用エレベーターはR4年更新
- ③ 高度な保存環境が必要な美術工芸品は、特別収蔵庫(1)(2)(3)を中心に収蔵。

現在、本館の温湿度管理用の空調が老朽化で故障。簡易なセパレート型の簡易空調設備で対応。データロガーで管理を継続している状況。

○ 収蔵率は130%を越えている

○ ポストエキヒューム対策

(害虫、カビ用の薬剤が販売中止になるため代替の対策が必要)

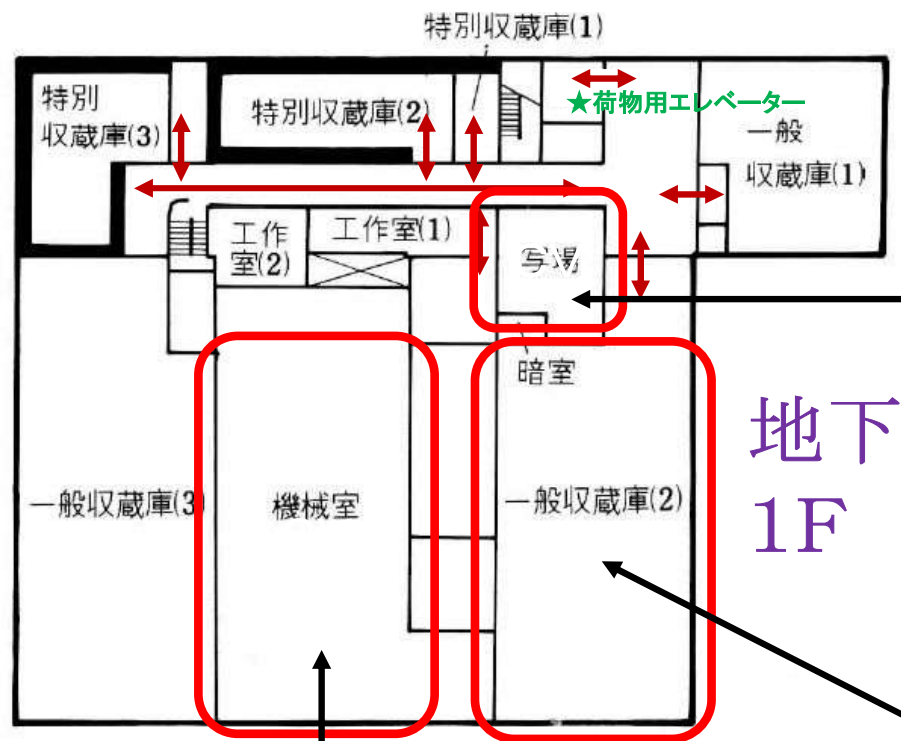


特別収蔵庫(3)



セパレート型の簡易空調設備

「収蔵庫他の課題」

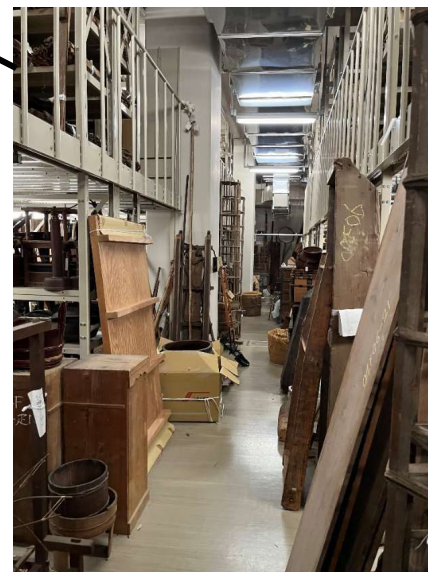


写場。現状は資料置き場としても活用されている

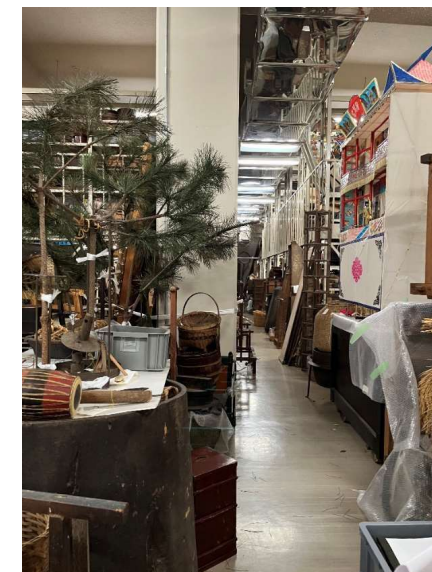
●収蔵率は130%を越えている



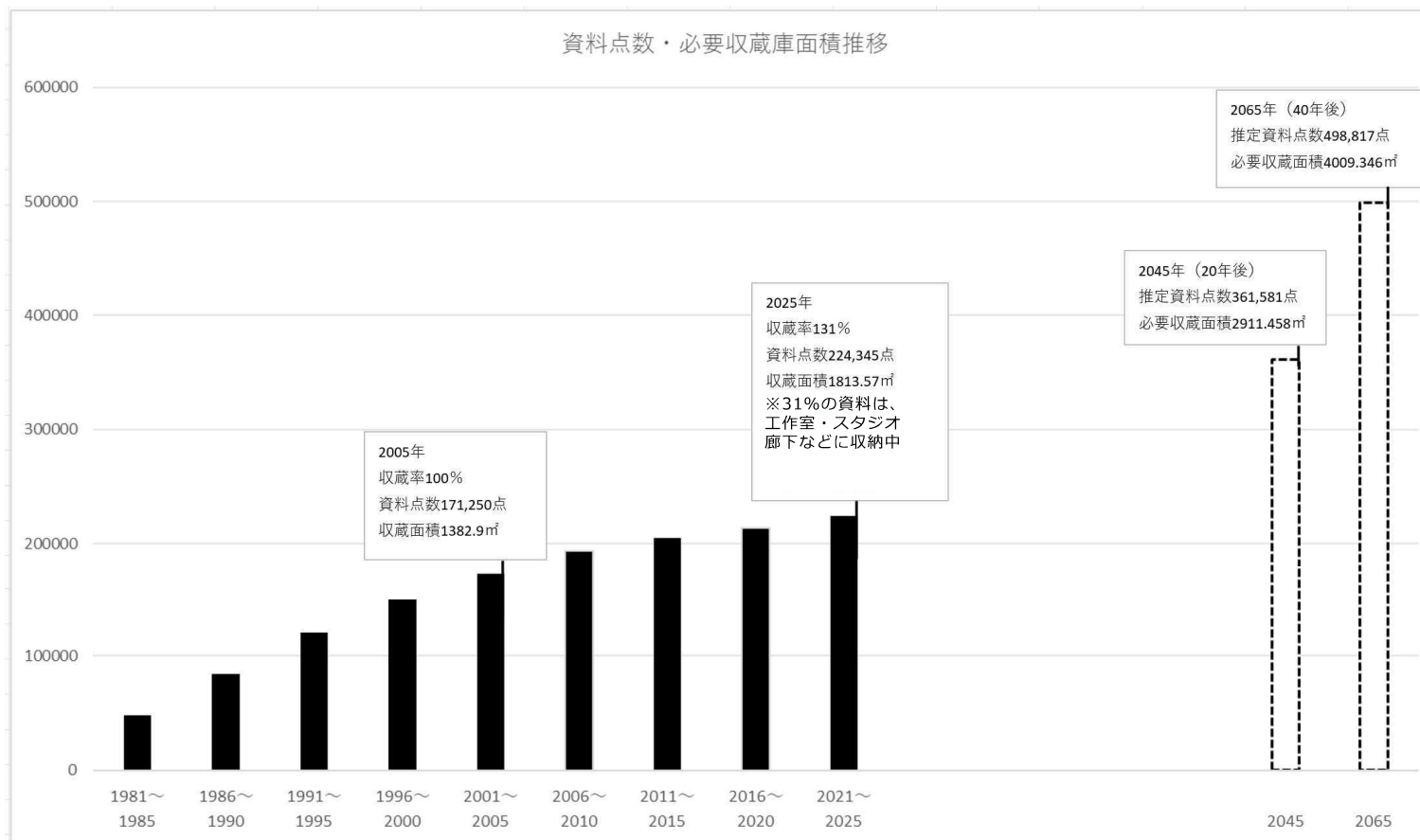
冷温水を循環させる古いタイプの設備。



一般収蔵庫(2)民具を中心に、中二階形式の収蔵棚で収蔵容量を拡大



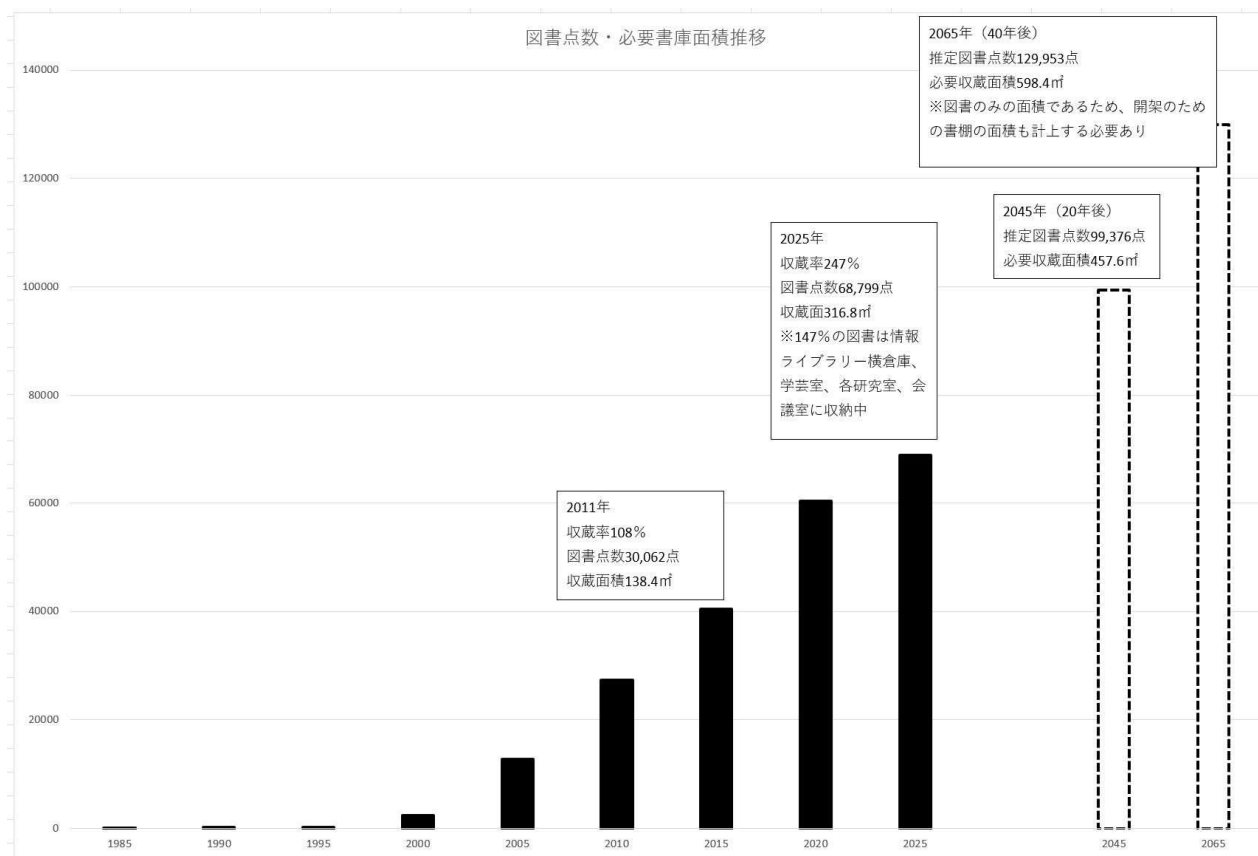
収蔵面積は、すでに130%を越え、将来も見据えた検討が必要



■ 収蔵点数、必要収蔵庫面積の現状と将来の予測

- 2005年: 収蔵率100%、資料点数171,250点、収蔵面積1382.9㎡
- 2025年: 収蔵率131%、資料点数224,345点、収蔵面積1813.57㎡
- 2045年: (20年後)、推定資料点数361,581点、必要収蔵面積2911.458㎡
- 2065年: (40年後)、推定資料点数498,817点、必要収蔵面積4009.346㎡

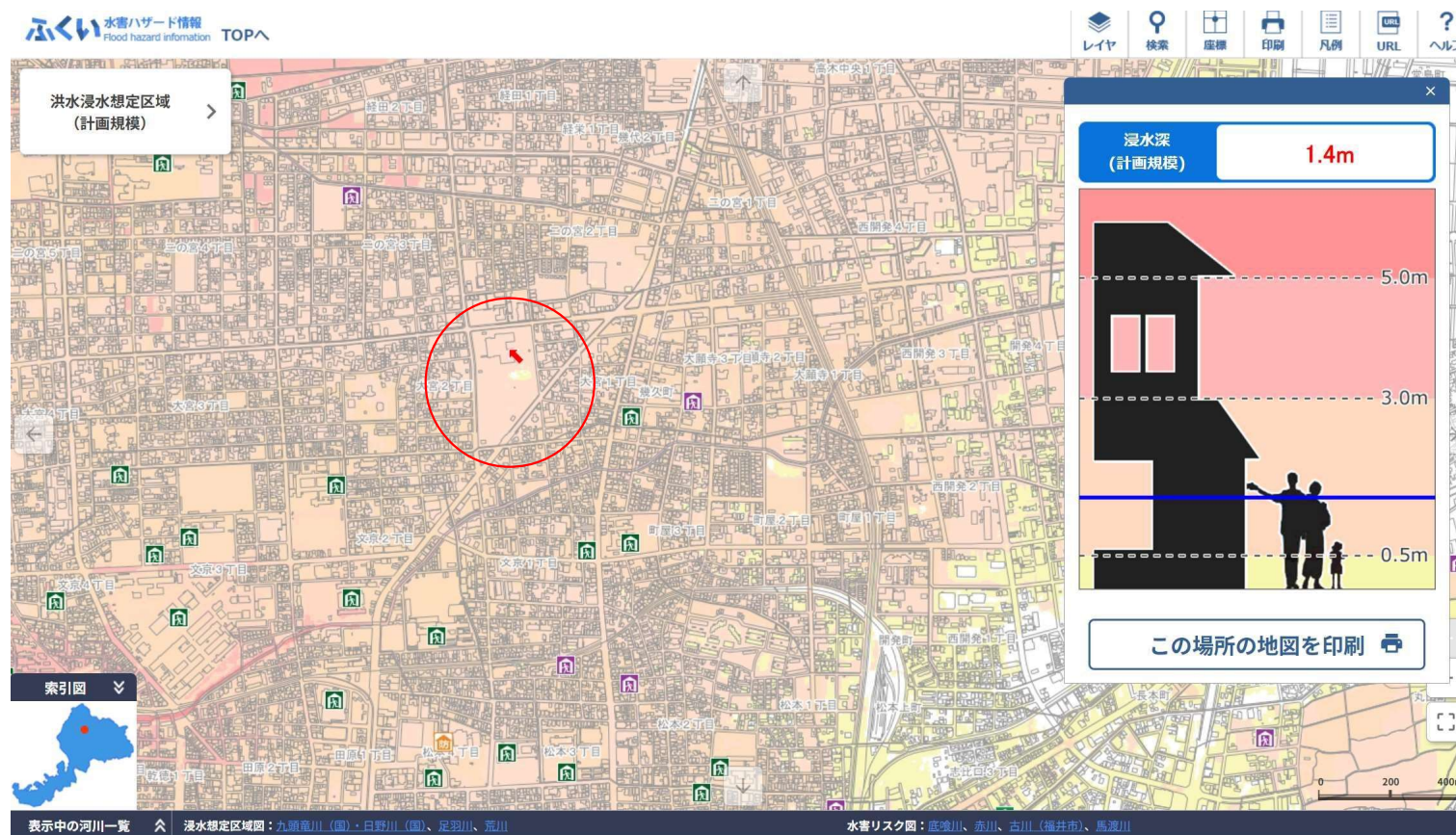
書庫の面積は、すでに247%を越え、将来も見据えた検討が必要



■ 図書点数、必要書庫面積の現状と将来の予測

- 2011年：収蔵率108%、図書点数30,062点、収蔵面積138.4㎡
- 2025年：収蔵率247%、図書点数68,799点、収蔵面316.8㎡
- 2045年：(20年後)、推定図書点数99,376点、必要収蔵面積457.6㎡
- 2065年：(40年後)、推定図書点数129,953点、必要収蔵面積598.4㎡

収蔵庫は地下にあるため、将来の浸水リスクへの備えが必要



■ 幾久公園の浸水深(計画規模)は、1.4m程度

ふくい水害ハザード情報(管理: 福井県土木部砂防防災課)による。
用途地域は、1種住居地域。

■シンボルゾーン

噴水は維持管理コストが大きく
稼働は下記のみ。

稼働させてない期間は、配管が
むき出しで景観を損ねている。
噴水の周囲は段差が多く、通行
に注意が必要。



公園利用者(多目的広場等)から見える場所に
博物館の展示案内がないため、一体感がない

■多目的運動ゾーン



トラックや芝生広場は、ウォーキング、グランドゴルフ、部活、遊び、休憩等、幅広い年代に利用されている

■テニスゾーン、自由芝広場

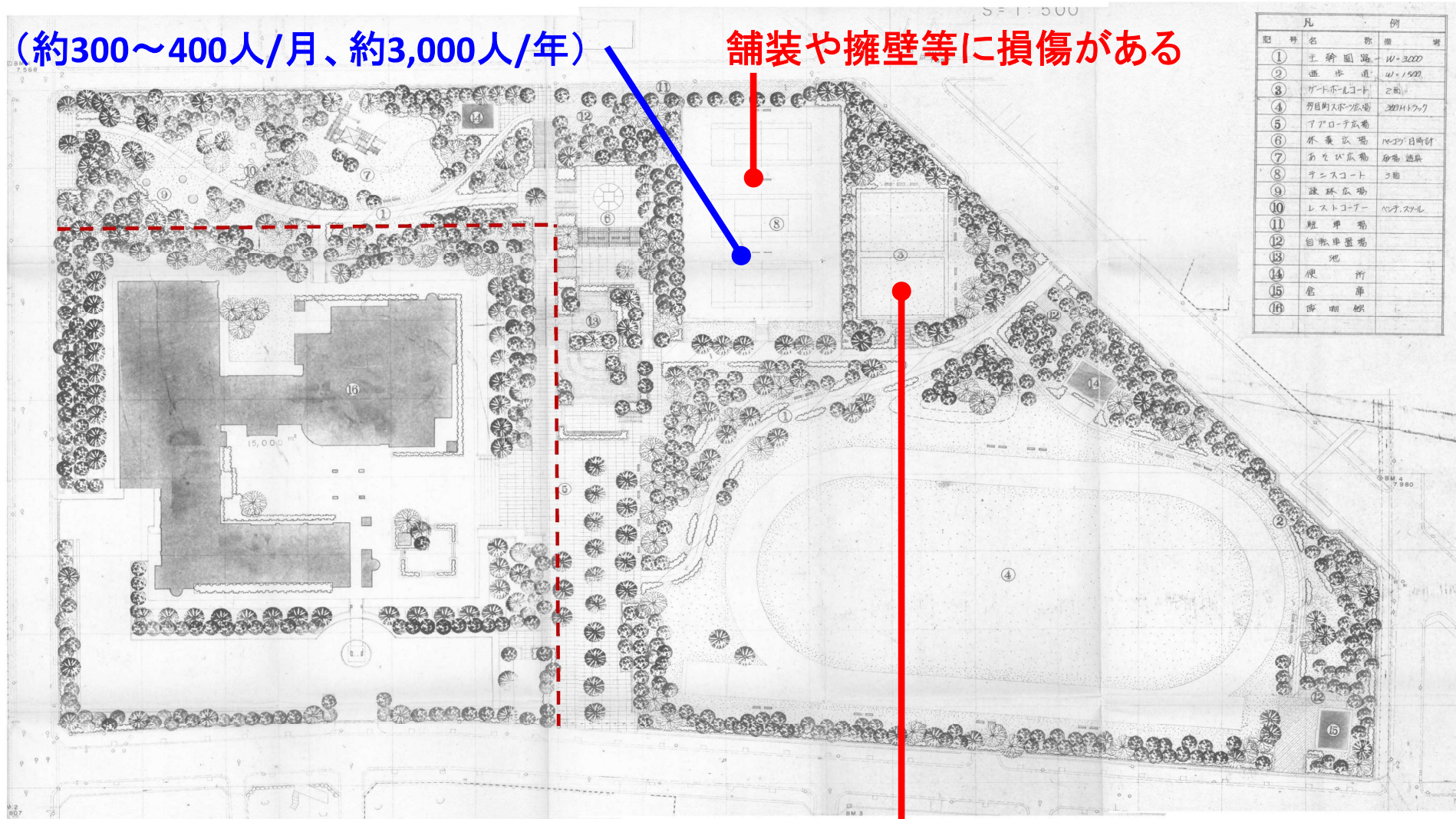
年間通じてテニス場は利用されている

(約300~400人/月、約3,000人/年)

住宅地が近く、音等に配慮が必要

(防音壁は一部設置済)

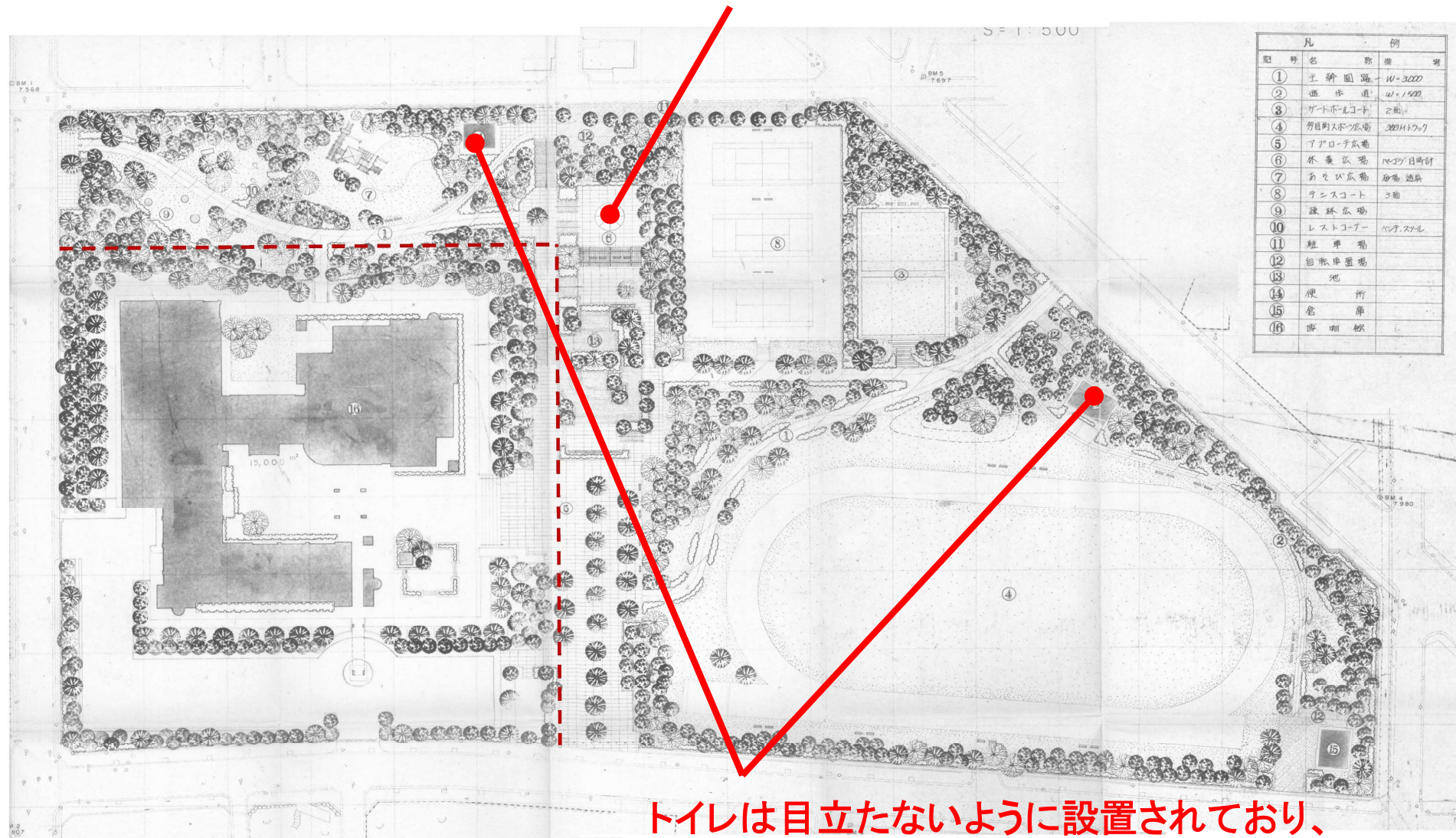
舗装や擁壁等に損傷がある



自由芝広場(ゲートボール場)は使用
されておらず、空き地になっている

■休養ゾーン

日時計と現在の歴史博物館の関連性が希薄



トイレは目立たないように設置されており、

防犯上不安がある

老朽化しており、和式のみで利用しづらい

■ 幼児ゾーン・児童ゾーン

複合遊具は老朽化のためR6に撤去済

現在はスプリング遊具のみしかない



樹木が繁茂し、見通し悪く、不審者情報もあり

■植栽ゾーン

樹木が繁茂しており密集している

また作業車の乗り入れができず、高木化した

樹木の剪定が難しい



ボランティアの方々が園内の清掃に協力してくれている

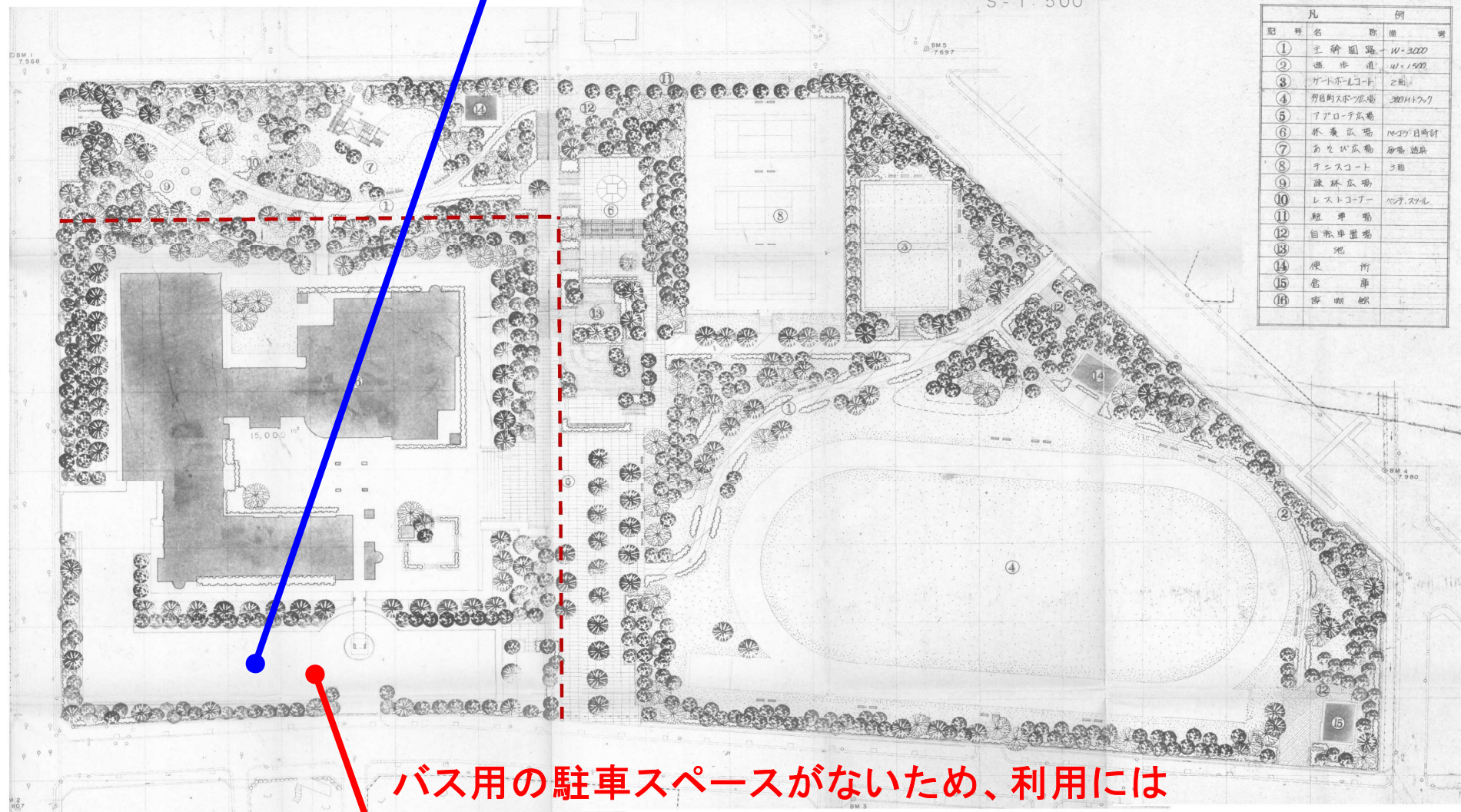
しかし、園内は広いため清掃が追い付いてはいない

樹木が密集しすぎ

公道上に枝がはみ出し、落葉もあり、苦情がある
維持管理が追い付かない

■ 駐車ゾーン

イベント時には駐車台数が足りないほど利用者が多く、
護国神社の駐車場を借りている(20~30台ほど)



バス用の駐車スペースがないため、利用には
事前連絡が必要
また、出入り・回転が難しい

■ 博物館外構

短時間豪雨の際、中庭の雨水桧から水があふれて
ロビーに浸水する



博物館地下に漏水があり、
高圧引込電線管が原因の可能性あり